取扱説明書

デジタルビデオムービー

型名 GR-DVL

はじめに

準備

基本操作

応用操作

その他

お買い上げいただき、ありがとうございます。

●ご使用の前にこの「取扱説明書」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。そのあと保証書と一緒に大切に保管し、必要なときにお読みください。

●製造番号は品質管理上重要なものです。お買い上げの際は、製造番号が記載されているか、またその製造番号と保証書に記載されている製造番号が一致しているかを、お確かめください。

LYT0030-001D

いますぐ撮影したい

☞ は参照ページです。

必要なもの

本体

アクセサリーキット（別売）

ACアダプター／
チャージャー
AA-V80

DCコード

Mini（ミニ） DVカセット（別売）

❶ 電源をつなぐ （☞ 19ページ）

❷ カセットを入れる （☞ 21ページ）

1 押－開ボタンを押して液晶画面を90°まで開く

2 ドアロックボタンを下に押して、手でカセットカバーを開く
・自動的にホルダーが開きます。

3 カセットを入れ ここを押す を押す
・カセットは奥まで確実に入れてください。
・自動的にホルダーが収納されます。

4 カセットカバーを閉め、液晶画面を閉じる

❸ 電源を入れる（☞29ページ）

❹ 撮る（☞32ページ）

❺ 再生する（☞42ページ）

もくじ

応用操作

その他

安全上のご注意

安全のために必ずお守りください

絵記号について

この取扱説明書と製品には、いろいろな絵記号が記載されています。
これらは、製品を安全に正しくお使いいただき、人への危害や財産への損害を未然に防止するための表示です。絵記号の意味をよく理解して本文をお読みください。

⚠危険　この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される内容を示しています。

⚠警告　この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠注意　この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の説明

●注意（危険、警告を含む）が必要なことを示す記号

一般的注意

手がはさまれる

●してはいけない行為（禁止行為）を示す記号

禁止

水場での使用禁止

接触禁止　分解禁止

ぬれ手禁止

水ぬれ禁止

●必ずしてほしい行為（強制、指示行為）を示す記号

一般的指示

プラグをコンセントから抜く

⚠警告

■煙が出たり、へんな臭いがするときなどは、バッテリーをはずす、または電源プラグを抜く

・販売店に修理を依頼してください。
・そのまま使用すると火災や感電の原因となります。
・お客様ご自身による修理は危険です。絶対におやめください。

■落としたり、壊れたときなどは、バッテリーをはずす、または電源プラグを抜く

・販売店に修理を依頼してください。
・そのまま使用すると、火災や感電の原因となります。
・お客様ご自身による修理は危険です。絶対におやめください。

■内部に水や異物が入ったときは、バッテリーをはずす、または電源プラグを抜く

・販売店に修理を依頼してください。
・そのまま使用すると、火災や感電の原因となります。
・お客様ご自身による修理は危険です。絶対におやめください。

■電源コードが傷んだときは、電源プラグを抜く

・販売店に修理を依頼してください。
・芯線が露出していたり、断線したままで使用すると、火災や感電の原因になります。

■持ち運ぶときには、液晶画面やファインダーを持たない

・液晶画面、またはファインダーを持って運ぶと、故障したり落として、 けがの原因となります。

■不安定な場所に置かない

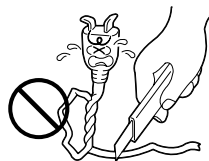
・ぐらついた台の上や傾いた所には置かないでください。
・落ちたり、倒れたりして、ムービーの故障やけがの原因となります。

■指定の電源電圧以外で使用しない

・火災や感電の原因となります。

⚠警告

■電源コードを傷つけない

・火災や感電の原因となります。
・次のようなことをすると、傷つく原因となります。ご注意ください。
加工する、無理に曲げる、ねじる、引っ張る、重いものをのせる、熱器具に近づける

■内部に物を入れない

・カセットの出し入れ口などから、金属類や燃えやすいものなどを入れない でください。
・火災や感電の原因となります。
・特にお子様にご注意ください。

■内部の部品に触らない

・カセットの出し入れ口から見える部品に触らないでください。
・感電や故障の原因となります。

■機器を接続するときは、電源を切る

・電源を入れたまま接続すると、感電や故障の原因となります。

■分解や改造はしない

・火災や感電の原因となります。
・お客様ご自身による点検、整備、修理は危険です。絶対おやめください。
・内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。

■自動車などの運転中に使用しない

・運転をしながら、撮影、再生をすることは絶対におやめください。
・交通事故の原因になります。

■レンズやファインダーを太陽や強い光源に向けない

・レンズやファインダーを太陽に向けたまま放置しておくと、集光により内部部品が破損して発熱し、火災や故障の原因となります。

⚠警告

■ぬらさない

・火災や感電の原因となります。
・風呂場では使用しないでください。
・雨天、降雪中、海岸、水辺で使用するときは、ご注意ください。
・水などの入った容器（花びん、植木鉢、コップ、化粧水、薬品など）は、こぼれたりしますので、機器の近くに置かないでください。

■雷が鳴り出したら、電源プラグにはふれない

・感電の原因となります。

■電源プラグが不完全な接続状態で使用しない

・接触不良で発熱し、火災や感電の原因となります。
・最後までしっかりと接続してください。

■電源プラグにほこりや金属物を付着させない

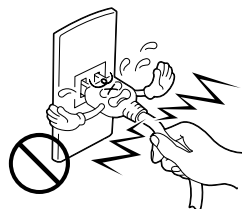
・ほこりや金属物を伝わって電気が流れ、ショートや絶縁不良で発熱し、火災や感電の原因となります。
・ほこりや金属物が付着しているときは、電源プラグを抜き、取り除いてください。

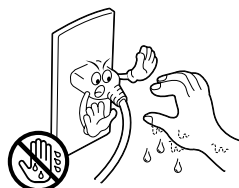
■上に乗らない

・倒れたり、こわれたりして、けがの原因になります。特に小さなお子様がいるご家庭ではご注意ください。

⚠注意

■電源コードはコードの部分を持って抜かない

・コードの部分を持って抜くと、コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。
・プラグの部分を持って抜いてください。

■ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない

・感電の原因となることがあります。

■次のような場所には置かない

・砂浜などの砂ぼこりのある所
・湿気やほこりの多い所
・調理台や加湿器のそばなど、油煙や湯気の当たる所
・熱器具の近くなど
・真夏の車内など高温になる所
・直射日光の強い所
・火災や感電の原因となることがあります。

■上に重い物を置かない

・バランスがくずれて倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。

■カセットの出し入れ口に手を入れない

・手をはさまれてけがをする原因となります。
・特にお子様にご注意ください。

■本体に衝撃を与えない

・けがをするおそれがあります。また、本機が故障する原因となります。

⚠注意

■指定以外のアクセサリーを使わない

・性能や形状が異なると、火災や故障、感電の原因となることがあります。
・本機に指定されたものか確かめ、アクセサリーの取扱説明書もよくお読みください。

■照明用ライトなどを使うときはライト部に顔、素手、髪の毛などを近づけない

・高温のため、やけどや髪の毛が燃える原因となります。

■本機やアクセサリーなどを布などでおおった状態で使用しない

・熱がこもって変形したり、火災の原因となることがあります。

■コード類は正しく配置する

・ACアダプターの電源コードや接続用コードなどは、足にひっかけると製品の落下や転倒などによりけがの原因となることがあります。
・十分注意して接続、配置してください。

■長期間使用しないときはバッテリーをはずす､または電源プラグを抜く

・電源が「切」でも本機に電気が流れていますので、安全のためにお守りください。

■別売の三脚を不安定な状態で使用しない

・足などの上に倒れる、けがをする原因となります。また、本機が故障する原因となります。
・足などを引っかけないようにご注意ください。強風にもご注意ください。

■移動するときは、電源プラグや接続コード類をはずす

・接続したまま移動すると、コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。
・カセットも取り出しておいてください。

⚠注意

■ **バッテリーやショルダーストラップは正しく取り付ける**

・正しく取り付けられていないと、落下によりけがや故障の原因となることがあります。

■ **お手入れするときは、バッテリーをはずす、または電源プラグを抜く**

・電源が「切」でも機器に電源が流れていますので感電の原因となることがあります。

■ **5年に一度は内部の点検を販売店に依頼する**

・内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないで使用し続けると、火災や感電の原因となることがあります。
・湿気の多くなる梅雨期の前に点検すると、より効果的です。
・費用については、販売店にご相談ください。

■ **強い電波や磁気の発生する所、または雷が近いときは使用しない**

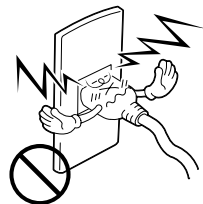
・故障の原因となることがあります。
・テレビの上や近くでは使用しないでください。
・RFユニットやACアダプターを使用しているときは、なるべくムービーから遠ざけてご使用ください。

■ **飛行機内で使うときは、航空会社の指示に従う**

・本機が出す電磁波などにより、飛行機の計器に影響を与える原因となります。

ACアダプター、バッテリーやボタン電池について

⚠危険

■ ACアダプターを指定の電源電圧以外で使用しない

・火災や感電の原因となります。

■ ACアダプターは指定以外のムービーやバッテリーには使わない

・性能や形状が異なると、火災や故障、感電の原因となることがあります。
・指定されたものか確かめ、ムービーやアクセサリーの取扱説明書もよくお読みください。

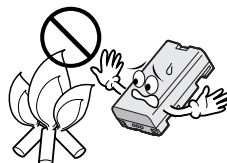
■ ACアダプターを分解や改造はしない

・火災や感電の原因となります。
・お客様ご自身による点検・整備・修理は危険です。絶対におやめください。
・内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。

■ バッテリーを充電するときは、指定のACアダプターを使う

・性能や形状が異なると、液漏れ、発熱、破裂、発火の原因となります。

■ バッテリーは絶対に分解、加工（はんだ付けなど）、加熱、火中投入などをしない

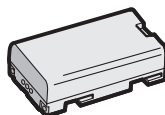
・液漏れ、発熱、破裂、発火し、火災やけがの原因となります。

ACアダプター、バッテリーやボタン電池について

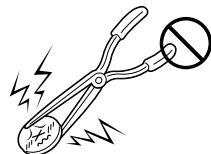
⚠危険

■高温の場所（60℃以上）に置かない

・発熱、破裂、発火の原因となります。

■バッテリーの端子部（⊕と⊖）に金属物（ネックレスやヘアピンなど）を接触させない

・ショートして発熱し、火災やけがの原因となります。
・持ち運びの際にはビニール袋などに入れ、金属物と端子が接触しないようにしてください。

■ボタン電池の端子部（⊕と⊖）に金属物（ネックレスやヘアピンなど）を接触させない

・液漏れ、発熱の原因となります。
・持ち運びの際にはビニール袋などに入れ、金属物と端子が接触しないようにしてください。

■ボタン電池は絶対に分解、加工（はんだ付けなど）、充電、加熱、火中投入などをしない

・液漏れ、破裂などの原因となります。

ACアダプター、バッテリーやボタン電池について

⚠警告

■指定以外のボタン電池は使わない、また液漏れを起こしたバッテリーやボタン電池を使わない

・液漏れを起こしたボタン電池はショートによる発熱で、さわるとやけどをする原因となります。
・電池を入れる前に品番をよく確かめてください。
・電池の液が漏れたときは、電池取り付け部の液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。
・電池の液が身体や衣服についたときには、水でよく洗い流してください。
万一、目などに液が入った場合はきれいな水で洗った後、ただちに医師に相談してください。

■ボタン電池は幼児の手の届かない所に置く

・万一、誤って飲み込んだときは、ただちに医師と相談してください。

⚠注意

■ボタン電池を入れるときは、極性表示（プラス ⊕ とマイナス ⊖ の向き）に注意する

・機器の指示通りにボタン電池を入れてください。間違えると電池の破壊、液漏れにより、火災やけが、周囲を汚す原因になることがあります。

■通電中のACアダプターや充電中のバッテリーに長時間触れない

・温度が上がり、長時間皮膚がふれたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。

主な特長

プログレッシブモード撮影

記念写真やプログレッシブモードでの動画を撮影すると、ブレのない高画質の静止画像を録画できます。また、録画した静止画像をパソコンに取り込んで加工編集したり、インターネットのホームページに利用したり、プリントアウトすることも可能です。

☞ 31、66ページ

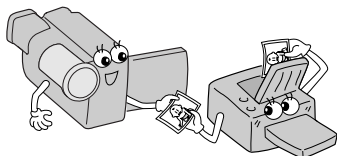
高画質記念写真

高画質の静止画を色々なモード（枠あり、枠なし、ピンナップ、ネガポジ反転）で撮影できます。

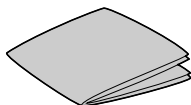
☞ 40ページ

DV出力端子

DVケーブル（別売）でDV端子を搭載するデジタルビデオ機器などと接続することで、画質・音声劣化のないダビング編集や画像取り込みができます。

☞ 47、75ページ

明るい10倍光学レンズ

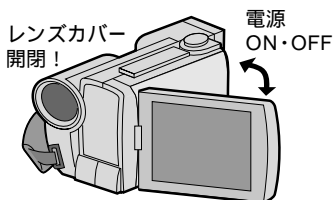
遠く離れた被写体も明るく大きく撮影できます。

付属品をお確かめください

クリーニングクロス

高画質電子ズーム

記念写真やプログレッシブモードでの動画を高画質でギザギザのない滑らかな画像で拡大します。

電源連動レンズカバー

液晶画面またはファインダーを開くだけで撮影スタンバイになります。（電源ダイヤルは撮影側）

デジタル静止画出力端子

専用ケーブル（別売）を使用してWindows®パソコンの通信端子（RS-232C）に簡単に画像を出力できます。

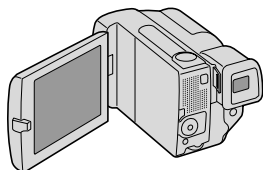
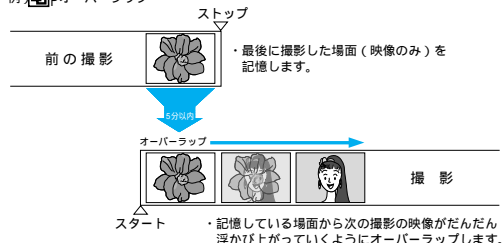
長時間対応バッテリーケース（別売）

本体バッテリーとで長時間撮影ができます。

デジタル演出効果

映像を加工してさまざまな演出をほどこして録画や再生ができます。

4型液晶画面

大型液晶画面でモニターや再生が見やすくなりました。

本文中の記号の見方

操作上の注意などが書かれています。

機能や使用上の制限など、参考になる内容が書かれています。

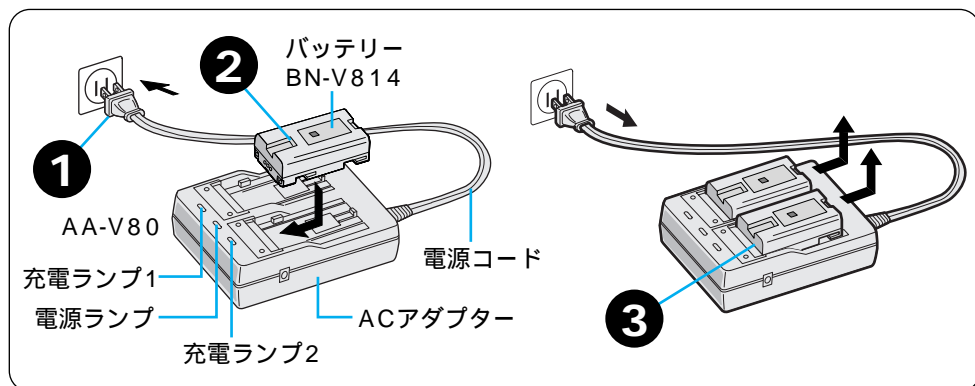
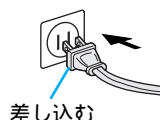
知っているとちょっと便利な内容が書かれています。

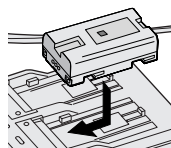
キーポイントやテクニックをまとめて説明しています。

参照ページや参照項目を示しています。

バッテリーを充電する

バッテリーの充電方法

バッテリーの充電には別売のACアダプター（AA-V80）が必要です。バッテリーを使い切っていない状態でも追加充電可能です。

1 別売のアダプターの
電源コードをコンセントに差し込む

2 **バッテリーを差し込む**

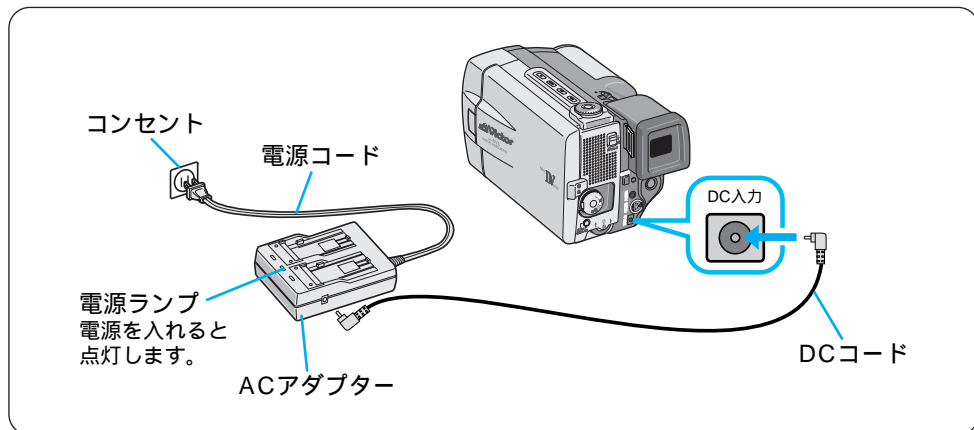
●充電ランプが点滅します。
●点滅から点灯に変わったら充電完了です。

3 **バッテリーを外す**

●次に電源コードも外します。

●充電時間の目安	➡ バッテリー（BN-V814）1個につき約110分
●充電できない	➡ ACアダプターにDCコードが接続されていると充電できません。
●充電しても撮影時間が短い	➡ 寿命です。新しいバッテリーに交換してください。
●撮影時間の目安	➡ バッテリー（BN-V814）1個で約100分（20℃下でファインダーを使った連続撮影）

コンセントの電源でムービーを動かす

コンセントにつないで使う方法

室内で使うときは、ACアダプター（別売）を使ってコンセントから電源をとると便利です。変換プラグを使用すると海外でもご利用できます。（☞ 114ページ）

グリップベルトを手に合わせる

手の大きさに合わせて、グリップベルトを調節します。

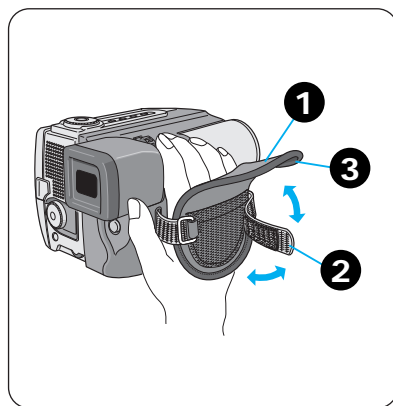
1 パッドをはずす

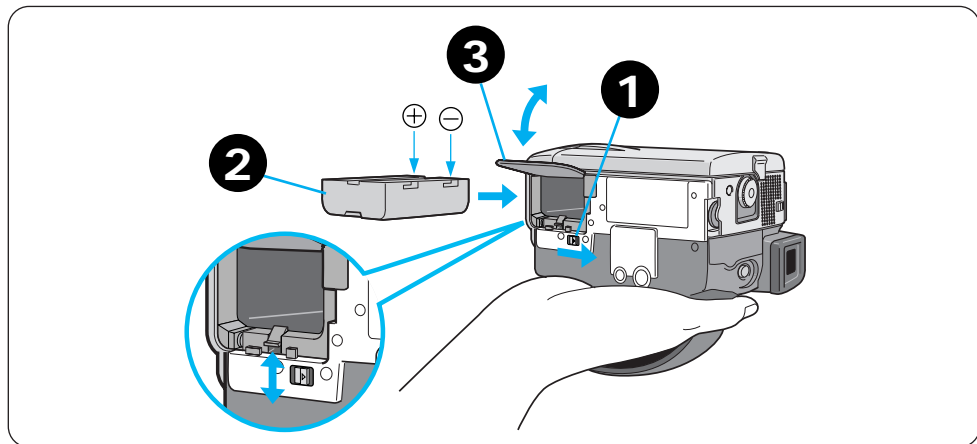
2 グリップバンドを調節する

●手を入れてズームスイッチとスタート／ストップボタンを操作しやすいように調節してください。

3 パッドをはりつける

バッテリーの入れかた

バッテリーを充電する 18
バッテリー残量表示 105

充電したバッテリーを入れる

バッテリー（別売キット）は出荷時は充電されていません。ACアダプターで充電してからお使いください。

❶ バッテリー開スイッチをスライドさせる

❷ 充電済みバッテリーを入れる

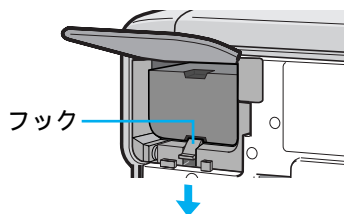
- バッテリーの⊕、⊖マークが上になるように入れてください。
- 逆に入れると故障の原因になります。
- カチッと音がするまで確実に差し込む。
- フックが上に上がります。

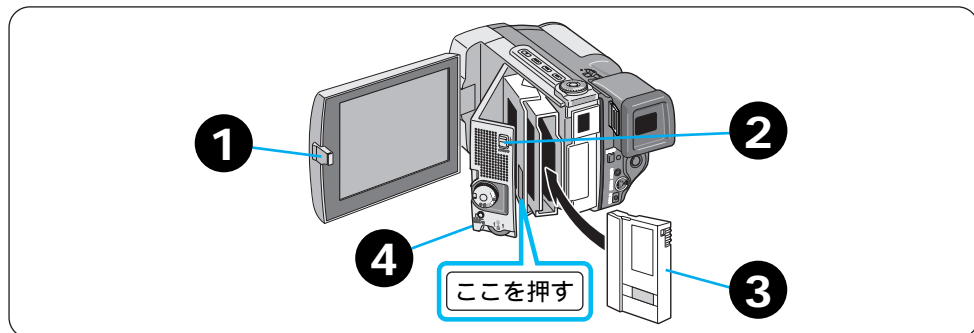
❸ バッテリーカバーを閉める

バッテリーを取り出す

手順❷で取り出す

- フックを矢印方向に押すとバッテリーが出てきます。
- バッテリーの落下防止のため、きつ目に作られています。

カセットの入れかた

カセットを入れる

充電済みバッテリーを取り付けていれば、電源を入れなくてもホルダーを開けることができます。

1 押-開ボタンを押して液晶画面を90 °まで開く

2 ドアロックボタンを下に押して、手でカセットカバーを開く

●自動的に、ホルダーが開きます。

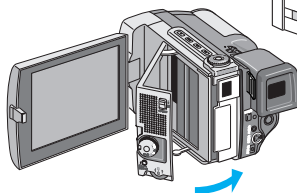
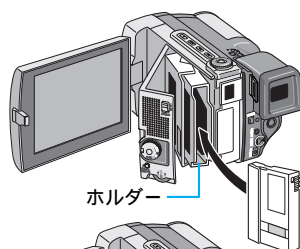
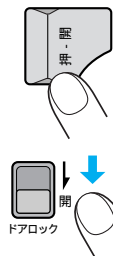
●内部の部品を直接手でさわらないでください。

3 カセットを入れ ここを押す を押す

●カセットは奥まで確実に入れてください。

●自動的にホルダーが収納されます。

4 カセットカバーを閉め、液晶画面を閉じる

●ホルダーに指をはさまないようにご注意ください

カセットを取り出す

手順3で取り出す

準備

各部のなまえとはたらき　☞ は参照ページです。

停止ボタン
テープの再生を中止します。
再生/一時停止ボタン
テープを再生または再生一時停止（静止）します。
巻戻しボタン
テープを巻き戻します。
早送りボタン
テープを早送りします。
プログレッシブダイヤル
（☞ 40, 66ページ）
プログレッシブ動画や記念写真を撮る際のモードを選択します。
プログレッシブボタン
（☞ 41, 67ページ）
ボタンを押すと、プログレッシブ撮影モード（高解像度）になります。（4/9分割を除く）
再生時に押すと再生記念写真ができます。（ネガ/ポジを除く）
プログレッシブ
ドアロック
（☞ 21ページ）
カセットを出し入れしたいときに下へ押します。
ファインダー
（☞ 29ページ）
撮影するときに引き出します。
スピーカー
再生すると音声が出ます。
スタート/ストップボタン
撮影の開始、一時停止します。
押ー開ボタン
（☞ 21ページ）
液晶画面を開くときに押します。
選択ダイヤル
（コントロールジョグダイヤル）
（☞ 48ページ）
液晶画面の明るさの調節や、メニューの選択で使用します。
メニューボタン
（☞ 68, 90, 108ページ）
メニューを表示させたいときポンと押します。
電源ダイヤル
（☞ 30ページ）
電源のオン、オフ、撮影、再生モードを切替えます。
画面表示入/切ボタン
画面の各種表示を入/切するときに約1秒以上押します。
Victor
GR-DVL
DIGITAL VIDEO MOVIE
ドアロック
DV出力

液晶画面
（☞ 29ページ）
撮影中、再生中に映像が映ります。

端子カバー
手前に引いて
開けます。

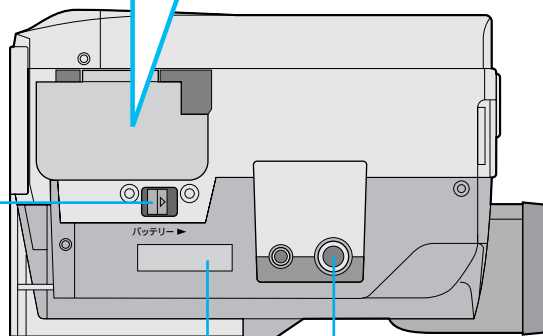
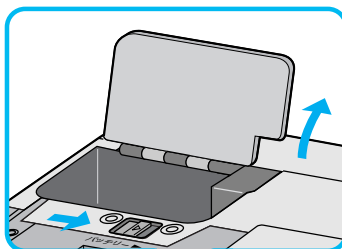
DV出力端子
（☞ 47ページ）
DV 端子付きのビデオ機器と接続します。バッテリーでお使いのときは、デジタル信号は出力されません。

S 2 映像出力端子
（☞ 44, 82ページ）
S端子付きのビデオ機器と接続します。

AV出力端子/ヘッドホン端子
（☞ 76, 78, 82ページ）
別売の映像/音声コード（3.5 φ）でテレビなどに接続します。また、市販のヘッドホンを接続して音声を聞くことができます。ただし音量調節機能付きのヘッドホンは使えません。

DC入力端子
（☞ 2, 19ページ）
別売のACアダプターと接続します。

― 底 面 ―

バッテリーカバー
（☞20ページ）
バッテリーを出し入れするときに
バッテリー開スイッチをスライド
させて開きます。

バッテリー開スイッチ
矢印方向にスライドすると、
バッテリーカバーが開きます。

三脚取り付けネジ穴

バッテリーケース接続端子
別売のバッテリーケースを接続します。

液晶画面とファインダー表示

撮影モード表示（☞ 30ページ）

ワイド効果表示（☞ 94ページ）

手ぶれ補正表示（☞ 94ページ）

録画モード表示（☞ 94ページ）

ズーム表示（☞ 37ページ）

デジタルズーム表示

明るさ固定表示（☞ 51ページ）

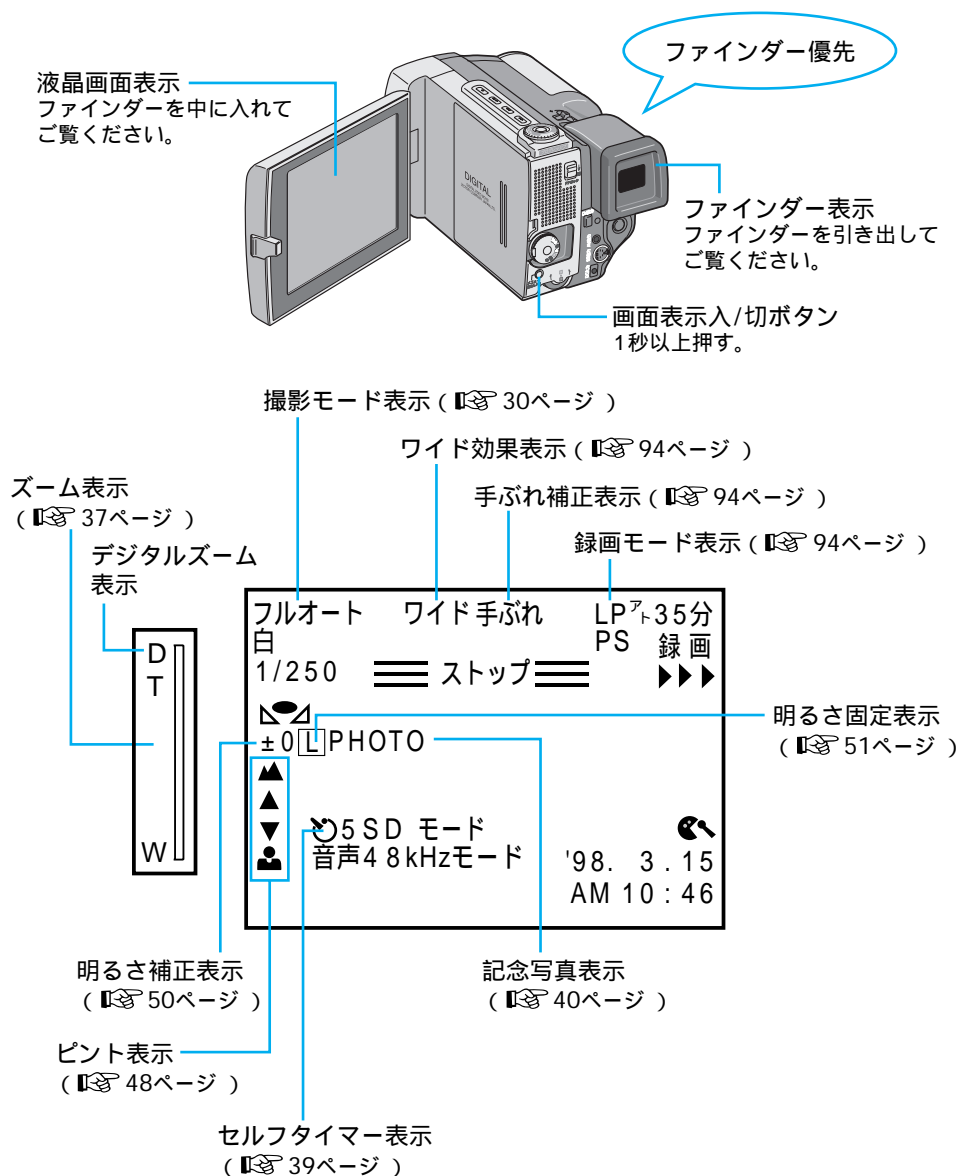
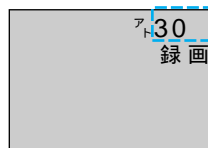
明るさ補正表示（☞ 50ページ）

記念写真表示（☞ 40ページ）

ピント表示（☞ 48ページ）

セルフタイマー表示（☞ 39ページ）

D
T
W

フルオート　ワイド 手ぶれ　LP ｱﾄ 35分
白　PS　録 画
1/250　═══ ストップ ═══　▶▶▶
±0 L PHOTO
▲▲
▲
▼
5SD モード
音声48kHzモード
'98. 3.15
AM 10:46

テープ残量表示（☞ 33ページ）

通常はテープの残量時間が表示されます。

対面撮影中はテープ残量が2分以下になると次のように表示されます。

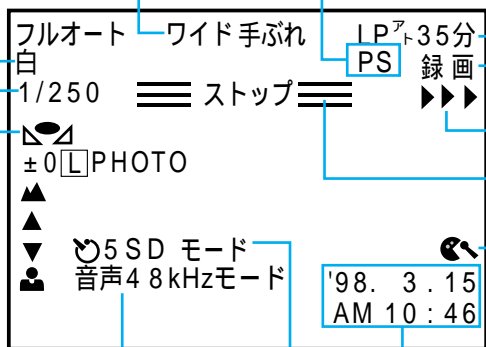
2分 → 1分 → 0分

ワイド／シネマ表示（☞ 94ページ）

場面切替表示（☞ 56ページ）

PS表示（☞ 31, 66ページ）
プログレッシブモードで撮影すると表示されます。

演出効果表示（☞ 62ページ）

フルオート　ワイド 手ぶれ　LP ｱﾄ35分
白　PS　録 画
1/250　ストップ
±0 L PHOTO
5SD モード
音声48kHzモード
'98. 3.15
AM 10:46

撮影中表示

テープ走行表示

録画一時停止表示

白バランス表示（☞ 52ページ）

ボイスポジション表示（☞ 88ページ）
風の音などをカットするモードに設定したときに表示されます。

音声モード表示（☞ 88ページ）

日時表示（☞ 70ページ）

シーン撮影表示（☞ 38, 88ページ）

準備

各部のなまえとはたらき（つづき）☞は参照ページです。

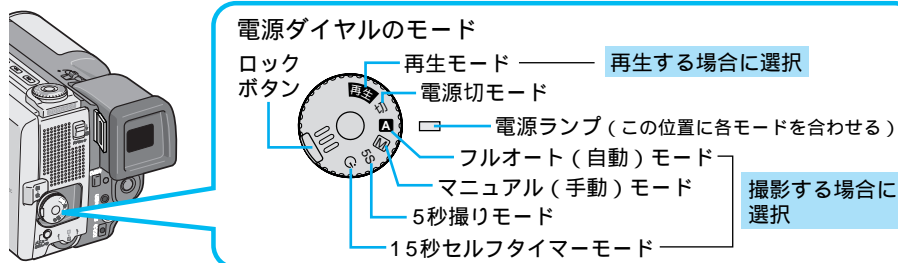
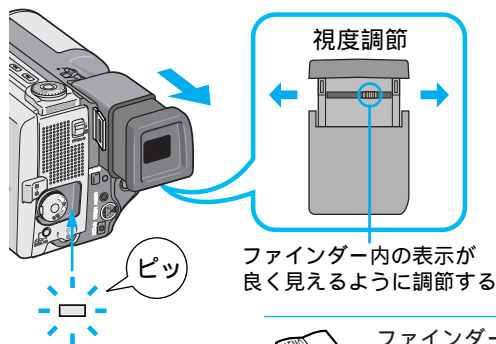
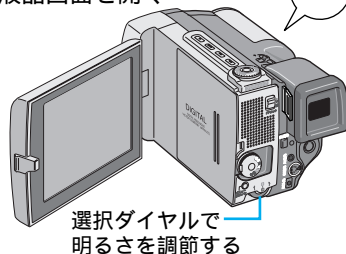
液晶画面とファインダー表示

（再生中の画面）

電源の入れかた／切りかた

電源ダイヤルモードの説明 30
ファインダー内のゴミ取り 107

電源を入れる

1 電源ダイヤルの
ロックボタンを押しながら回しモードを選択する
●とりあえず A を選択します。

2 **ファインダーを引き出す**
●止まるまで引き出します。
●電源ランプが点灯します。

●ファインダーが出た状態で液晶画面を開いても、液晶画面には何も映りません。ファインダーを押し込んでください。
●対面撮影（35ページ）では、ファインダーと液晶画面の両方に映ります。

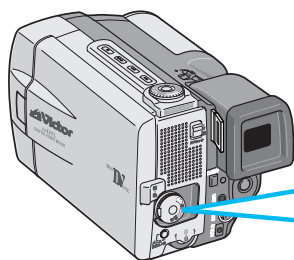
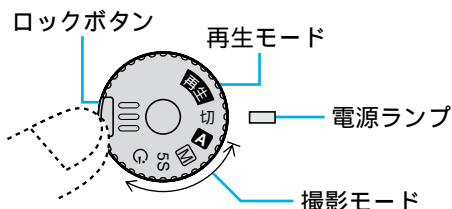
電源を切る

手順❷でファインダーを押し込む（液晶画面を閉じる）

●長時間使わないときは電源ダイヤルを「切」に合わせてください。
●電源ダイヤルが「切」と「再生」以外の時はファインダーを引き出す（または液晶画面を開く）だけで電源が入ります。

撮影モードの選択

電源ダイヤルで撮影モードを選択

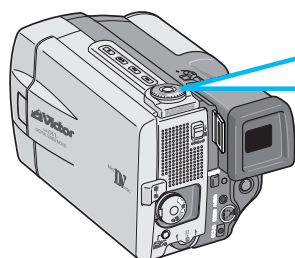
電源ダイヤルには、再生モードと4つの撮影モードがあります。

●各モードの概要

撮影モード	モードの概要	参照ページ
切	電源が切れます。このときマニュアルフォーカスと明るさ補正はオートになります。	48 50
A フルオートモード	ムービーの設定をなにも行わなくても、ビデオ撮影がお楽しみいただけます。普通のスナップ撮影に最適のモードです。	32
M マニュアルモード	撮影方法を細かく設定することができます。 フルオートモードでの撮影では物足りなくなってきたときなどは、どんどんご活用ください。	94
5S　5秒撮りモード	自動的に5秒間だけ撮影を行うモードです。 旅先で5秒撮りモードに設定しておいて、ランダムに名所などを撮影していくなど、さまざまな用途でご利用いただけます。 各種設定は、フルオートモードと同じになります。 （白バランスは、先に設定した状態のままです。）	38
15秒セルフタイマーモード	ムービーを固定して、みんなが映ったビデオを撮りたいときなどにご利用いただけます。カメラのセルフタイマーと同じ原理です。	39

プログレッシブの意味 120
記念写真モードについて 40

プログレッシブモードの選択

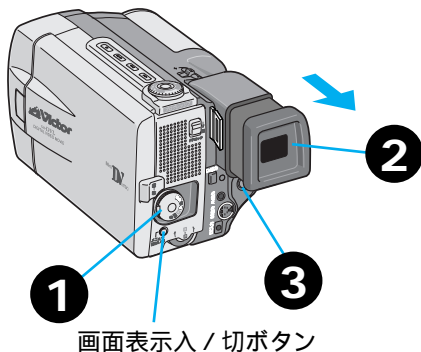
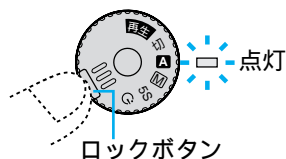
記念写真を撮ったり、高解像度で動画を撮影するときに選択します。プログレッシグ動画は、1秒間に30コマの高画質静止画を記録していきます。あとで再生一時停止して、お好みの一枚をプリントアウトしたり、パソコンにキャプチャーしたいときは、このモードで記録すると高画質な静止画が得られます。

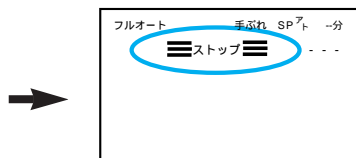
準備

プログレッシブモード	モードの概要	参照ページ
枠なしモード	プログレッシブボタンを押すと、カシャと音がして白ワクの付かない静止画像を記録することができます。	41
枠ありモード	白ワクの付いた静止画像を記録することができます。	41
ピンナップモード	白ワクに黒い影を付けて立体的に浮き上がらせたようにワクを付けて静止画を記録することができます。	41
ネガポジ反転モード	白い部分と黒い部分を反転してネガフィルムのように見せて静止画を記録することができます。	41
動画モード	プログレッシブボタンを押すと高解像度で録画されます。録画した画像をパソコンで加工したりプリンターに出力したいときなどにご利用いただけます。ただし、再生するとややぎこちない動きになります。	66

●4分割（田）と9分割モード（田）はプログレッシブモードではなく通常モードで記録されます。（☞ 41ページ）

簡単な撮影のしかた

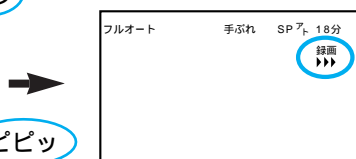
撮影する

ピントや露出合わせも自動（フルオートモード）で、簡単に撮影できます。

1 電源ダイヤルの
ロックボタンを押しながら「A」に合わせる

2 **ファインダーを引き出す** ピッ

●電源が入り、電動でレンズカバーが開きます。

3 **スタート/ストップボタンを押す** ピッ

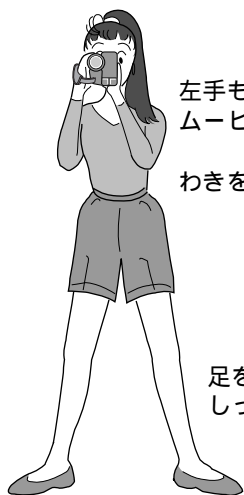
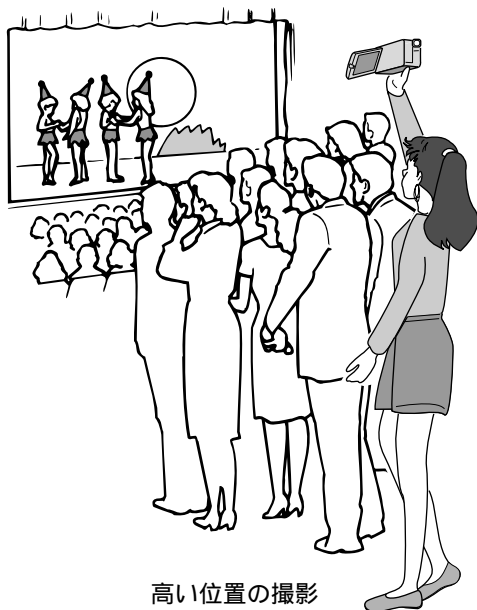
●録画が始まります。

●撮影中ランプ（タリーランプ）が点灯します。

●再度押すと録画一時停止になります。 ピピッ

- **連続撮影時間**
  ファインダー使用時、約100分
  （バッテリー「BN-V814」フル充電時）
  別売バッテリーケース使用時（BN-V814×2）
  約180分
  液晶画面使用時、約80分
  （バッテリー「BN-V814」フル充電時）
  別売バッテリーケース使用時（BN-V814×2）
  約140分
- **液晶画面で撮影するには**
  ファインダーを押し込み、液晶画面を開いてください。
- **5分以上撮影を一時停止したときは**
  ムービーの節電とテープ保護のため自動的に電源が切れます。再び撮影したいときは、ファインダーを一度入れ、再び引き出してください。液晶画面をお使いのときは、液晶画面を一度閉じ、再び開いてください。
- **マニュアルモードで撮影するには**
  手順1で電源ダイヤルを M に合わせます。その他の操作方法はフルオートモードと同じです。
- **テープの残量を確認するには**
  撮影中は、画面に自動的にテープの残量が表示されます。テープの残量が残り2分になると時間表示が点滅し始め、テープが終わると「テープオワリ」と表示されます。液晶画面の表示を消しているときは、テープ残量が2分になると自動的にテープの残量が表示されます。
- **日時を確認するには**
  「日時表示」を「入」に設定します。ムービーには、あらかじめ現在の日時が登録されています。日時がズレているときなどは、日時を合わせてください。また、内蔵の時計用電池が放電している場合、日時の登録が消えてしまいます。内蔵の時計用電池を充電してから、日時を合わせなおしてください。
- **画面のメッセージを消したいときは**
  画面表示入/切ボタン（メニューボタン）を約1秒以上押します。ただし、「▶▶▶」などのテープ走行表示、トラブル発生時の警告表示は消せません。
- **撮影中の音声をモニターしたいときは**
  ムービーのスピーカーからは撮影中の音声は出ません。音声を聞きながら撮影したいときは、別売のヘッドホンをヘッドホン端子（AV出力端子）につないで聞いてください。このとき音量は再生時に調節したままとなります。
- **屋外で撮影するときは**
  光の反射などで液晶画面が見づらいときは、ファインダーをのぞいて撮影することをおすすめします。

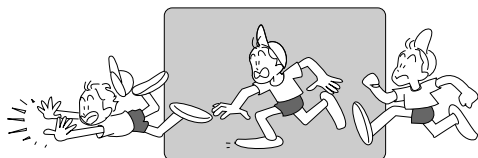
撮影の基本

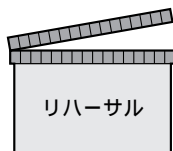
上手にとる姿勢

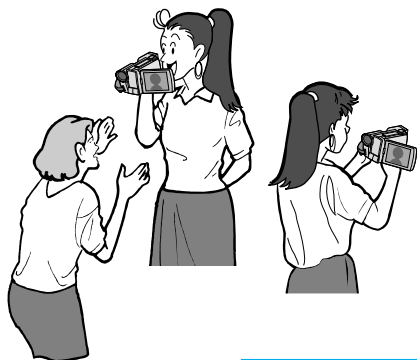
安定した画面を撮るためのコツは、画面の中の人が動いてもムービーを動かさないことです。ふらつかず、安定した姿勢で撮影します。

低い位置の撮影

高い位置の撮影

撮影の基本操作

ムービーを動かさない

安定した映像で撮影するためには、ムービーを固定して撮ります。
左右に動かすとき（パンニング）は、水平にゆっくり動かします。撮りはじめとと撮り終りは、ピタッと止めます。

カメラリハーサルを行う

電源ダイヤルを、 A 、 M 、【5S】、 ⏲ にすれば、テープを入れなくてもムービーで撮っている映像を見ることができます。この状態で映像/音声コードをつなげば外部映像機器に出力することができます。（接続のしかたは ☞ 44ページ）

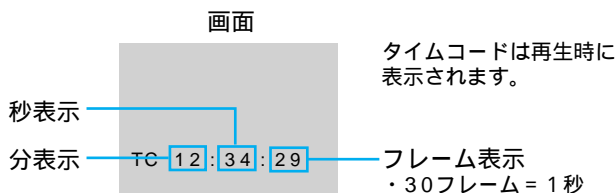
いろいろなアングルで撮影する

液晶画面は上に180°、下に90°回転します。液晶画面にご自分を映し、映り具合を見ながら撮影することもできます（対面撮影）。液晶画面を開いて180°回転させ、レンズをご自分に向けて撮影してください。ビデオ日記などをお撮りになりたいときにご利用いただけます。

●対面撮影中の液晶画面には、鏡に映ったような映像が出ます。また、ファインダーや液晶画面上の表示は、「▶▶▶」などのテープ走行表示と、ムービーにトラブルが生じたときの警告表示しか出ません。

タイムコードについて

タイムコードと無記録部分

タイムコードとは

撮影中、ムービーはテープの1コマ1コマにタイムコードと呼ばれる数字を記録していきます。タイムコードはテープの再生や編集の際に、映像の位置を確かめる目安になります。自動編集（☞ 80ページ）などはタイムコードを利用して行います。

●早送り、巻き戻し時のタイムコード表示は、ムービーがテープの位置を確認するため、タイムコードが数秒間前後することがあります。

テープの途中に無記録部分があると誤動作の原因となります

テープに何も記録されていない部分を無記録部分と言います。同じテープの中の何も記録されていない部分から撮影を開始すると、タイムコードは「00:00:00」（分:秒:フレーム）から新たにタイムコードを記録していきます。1本のテープの中に複数の同一タイムコードが記録されるため、自動編集などの誤動作の原因になります。

次のような場合は一度再生して、場面の終わりを確かめてから撮影してください。

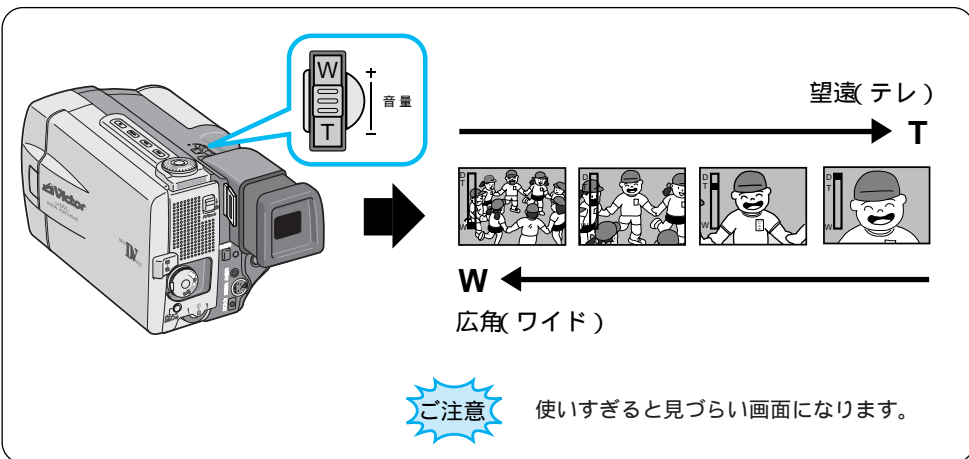
- 撮影後に確認のため再生してみたテープで引き続き撮影するとき
- 撮影の途中で電源やバッテリーが切れたとき
- 使い切っていないテープをムービーから出し入れして撮影するとき
- 途中まで撮影したテープを使って撮影するとき
- テープの途中にある無記録部分に撮影したいとき
- 撮影後にテープのテープカバーを開閉した後で撮影するとき

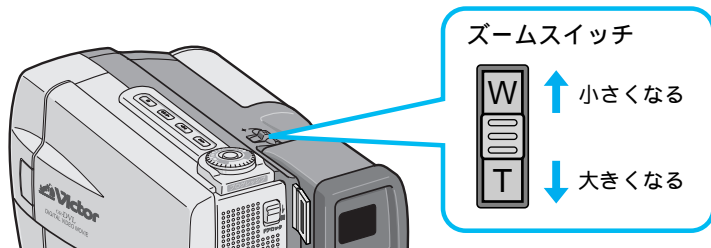
ズームして撮影する

ズームの選択 94
オーバーラップ機能 57

ズーム撮影

撮影中に被写体にズームすることができます。被写体が遠いところにいるときや、画面に変化を付けたいときなどにご利用いただけます。

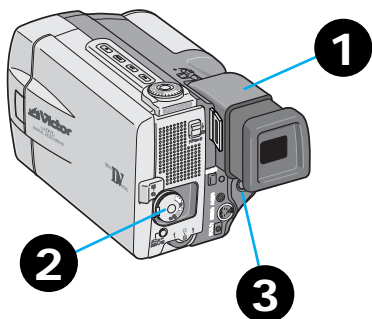
基本操作

1 ズームスイッチを押す

●少し押すとゆっくりズームし、いっぱいまで押すと早くズームします。

- ●フルオートモードでのズーム ➡ 40倍までズーム可能
- ●マニュアルモードでのズーム ➡ 最大200倍までズーム可能
- ●10倍以上のズーム（デジタルズーム） ➡ 10倍までの映像に比べて多少映像品質が劣化します。（デジタル処理をするために）
- ●接写したいとき（マクロ撮影） ➡ W側にいっぱいまで押すとレンズから約1.5cmまで被写体に近づいて撮影可能
- ●10倍以上のズームが使用できない ➡ 映像をデジタル処理する機能（ゴースト、オーバーラップなど）との併用はできません。

5秒撮りする

5秒撮りオーバーラップ 88

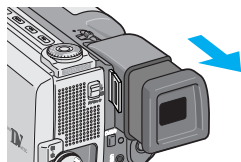
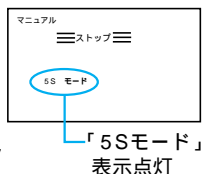
5秒撮り

スタート/ストップボタンを押して5秒間だけ映像を撮影することができます。 旅先で風景や名所の記録を5秒間ずつ映像と音声で残したいときなどにも便利です。

5秒撮りの撮影では

- ●フルオートモードで撮影されます。白バランスは先に設定した状態のままです。
- ●撮影中はスタート／ストップボタンで停止できません。

1 ファインダーを引き出す

2 電源ダイヤルの

ピッ

ロックボタンを押しながら、「5S」に合わせる

3 スタート/ストップボタンを押す

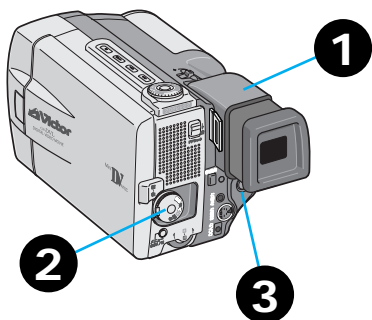
5秒撮り撮影モードで記念写真を撮りたいときは

●手順3で記念写真モードをプログレッシブダイヤルを回して設定してからプログレッシブボタン（☞40ページ）を押します。約5秒間、テープに静止画像が記録されます。ただし、「シーン」を「アニメ」（☞88ページ）にしているときはできません。

セルフタイマーで撮影する

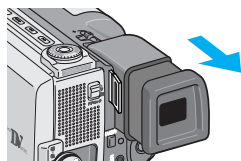
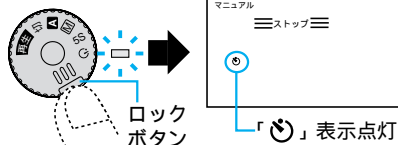
対面撮影 35
記念写真撮影 40

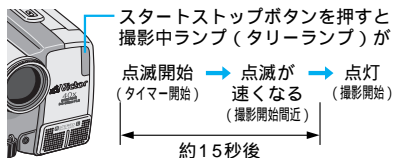
セルフタイマー撮影

ムービーを固定してセルフタイマー撮影を行うと、撮影者も一緒にビデオを撮ることができます。みんなが写ったビデオを残したいときなどにご利用ください。

液晶画面を見ながら撮影する

●液晶画面を180°回転させて、映り具合を見ながら撮影位置を決めることができます。

●撮影中はスタート/ストップボタンで停止できます。

1 ファインダーを引き出す

2 電源ダイヤルの **ロックボタンを押しながら、「⏲」に合わせる**

3 スタート/ストップボタンを押す

●再度押すと停止します。

セルフタイマーモードで記念写真を撮りたいときは

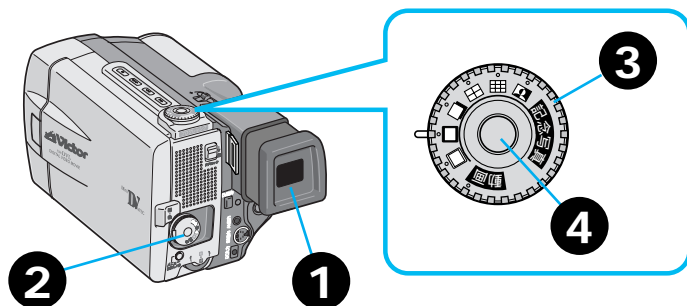
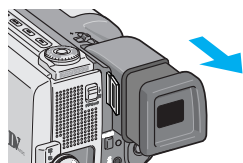
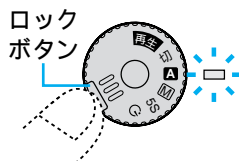
●手順3で記念写真モードをプログレッシブダイヤルを回して設定してからプログレッシブボタン（☞ 40ページ）を押します。約15秒後に、記念写真撮影をします。

プログレッシブダイヤルが「動画」のときは

●プログレッシブル動画で撮影されます。

記念写真を撮る

記念写真撮影

ビデオの中に写真のような映像を挿入することができます。被写体の表情などをワンポイントで記録したいときなどに効果的です。

1 **ファインダーを引き出す**

2 電源ダイヤルの
ロックボタンを押しながら「A」か「M」に合わせる

3 **プログレッシブダイヤルを回して「□」に合わせる**

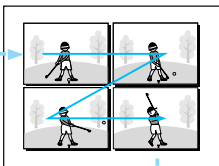
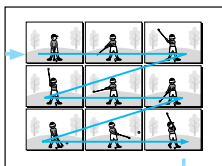
- 6種類の記念写真モードから選択できます。
- ここでは枠ありを選択します。

記念写真モードについて

プログレッシブダイヤルを回して、6種類のモードから一つを選択します。
各モードに切り替えると次のように記録されます。

枠ありモード カシャ

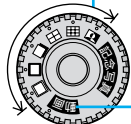
ピンナップモード

4分割モード

9分割モード

ネガポジ反転モード

4 プログレッシブボタンを押す

●白枠付の高解像度の静止画像が約6秒間記録されます。
●高画質で撮影されるのは、「枠なし」「枠あり」「ピンナップ」「ネガポジ反転」です。
●演出効果（シャッターを除く）が設定されているときは、4分割、9分割モードで撮影できません。

MEMO

●撮影中に記念写真を撮影したときは

記念写真モードのときは静止画像が約6秒間記録されます。

プログレッシブ動画撮影中では、お好きな記念写真モードに合わせて、プログレッシブボタンを押します。撮影を止めるときは、プログレッシブダイヤルを「動画」に戻してからプログレッシブボタンを押します。

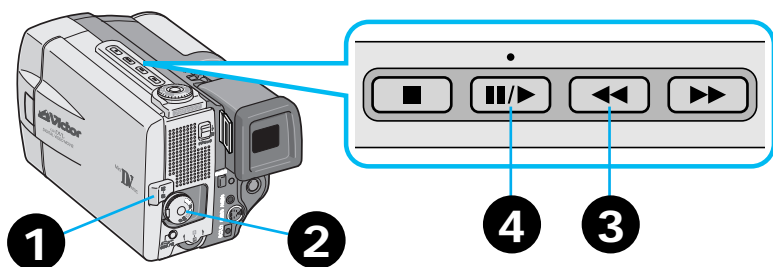
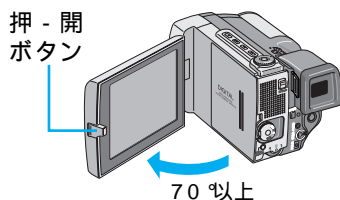
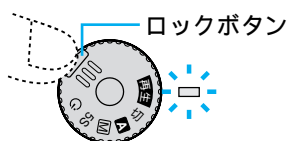
●撮影一時停止状態で記念写真を撮影したときは
静止画像を約6秒間記録した後、撮影一時停止状態に戻ります。

●記念写真ボタンを押し続けたときは
静止画像を約0.7秒ごとに連写します。

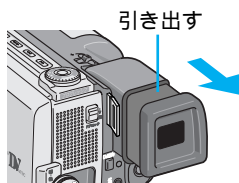
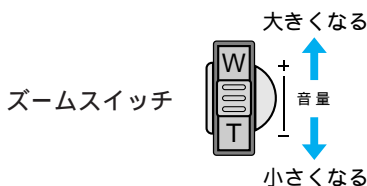
●再生中も記念写真モードを使えます
「カシャ」音は出ません。「ネガポジ反転」はできません。

再生する

ムービーだけで再生する

ムービーの液晶画面で再生できます。撮ったその場で映像を確認したいときなどにご利用ください。

1 **押ー開ボタンを押して液晶画面を開く**

2 電源ダイヤルの
ロックボタンを押しながら「再生」に合わせる

3 **巻戻しボタンを押してテープを巻戻す**

4 **再生ボタンを押す**
- 画面に再生映像が映り、音声がスピーカーから出ます。

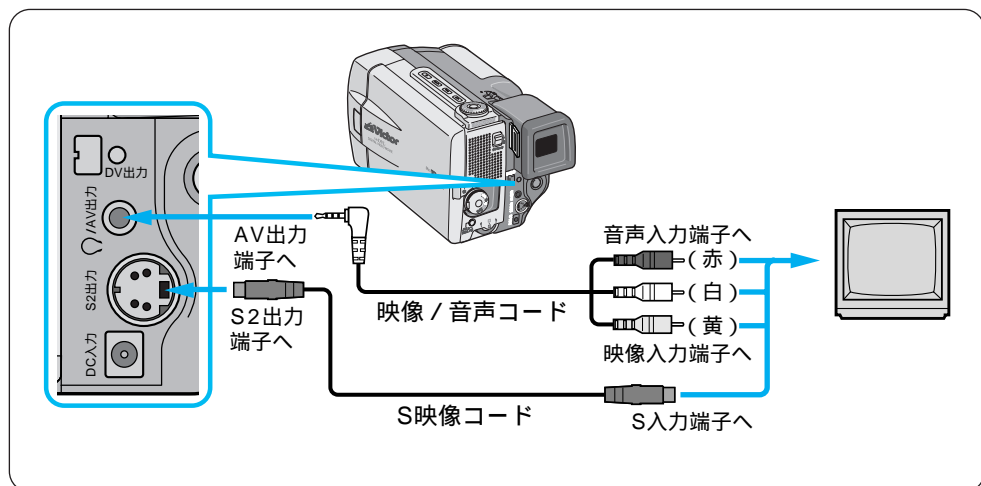
ファインダーで見るには

音量調節するには

色々な再生

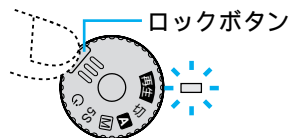
こうして見たい	このボタンを押す		ふつうの再生に戻す
・画面を見ながら早送りして探し見したい（早送り再生）9倍速	再生中に ▶▶	1度ポンと押す	❚❚/▶ 再生ボタンを押す
		押し続ける	指を離す
・画面を見ながら巻戻しして探し見したい（巻戻し再生）9倍速	再生中に ◀◀	1度ポンと押す	❚❚/▶ 再生ボタンを押す
		押し続ける	指を離す
・画面を一時停止させて見たい（静止画再生）	再生中に ❚❚/▶		❚❚/▶ 再生ボタンを押す
・スローで再生したい（スロー再生）	静止画再生中に（リモコンで操作）◀ スロー ◀❚　▶ スロー ❚▶ どちらか一方を押す		再生 ▶ リモコンの再生ボタンを押す 約10〜20秒スロー再生を続けると自動的に通常再生に戻ります。

●静止画再生を約3分以上続けると自動的に停止します。
●高速再生、スロー再生中は多少モザイクのかかったような映像になります。また、音声は出ません。
●スローボタンを押すと数秒間静止画になり、その後青い静止画（ブルーバック）が数秒間表示されるときがあります。故障ではありません。
●コピーガードが付いているテープは再生できません。画面はブルーバック（青い画面）になります。

接続のしかた

テレビまたはビデオデッキにつないで再生する

みんな揃ってビデオを楽しみたいときなど、ムービーをご家庭のテレビやビデオにつないで再生することができます。

1 **ムービーをテレビまたはビデオデッキに接続する**

2 電源ダイヤルの
ロックボタンを押しながら「再生」に合わせる

3 **テレビ、またはビデオデッキの電源を入れる**

●電源は必ず接続後に入れてください。電源を入れたまま接続を行うと、機器の故障の原因になります。

4 テレビのチャンネルやビデオデッキの入力モードを設定する

●ムービーをテレビに接続したとき
テレビの入力モードをムービーを接続した端子に切り替えます。
（例えば「ビデオ1、ビデオ2、ムービー」など）。

●ムービーをビデオデッキに接続したとき
テレビをビデオを見るチャンネルに合わせ、ビデオデッキの入力モードを外部入力に設定します。

●急に大きな音が出たりしないように、テレビの音量は最小にしておいてください。

5 再生ボタンを押す

●別売のリモコンでも操作できます。

●ご使用になるテレビやビデオデッキによって、入力モードの設定方法は異なります。詳しくはテレビやビデオデッキの取扱説明書を参照してください。

●テレビから「ピー」「ウワーン」というノイズ音が出るときは、テレビからムービーのマイクを離すかテレビの音量を下げてください。

●テレビ、またはビデオデッキの音声入力端子が1つしかないときは別売の変換プラグ（CN-161G）を接続してください。

●再生時のメッセージ表示を消す
・日時の消去 ☞ 70ページ、
・タイムコードの消去 ☞ 71ページ
●再生映像をズームしたい ☞ 72ページ
●再生映像に変化を付けたい ☞ 73ページ
●ムービーだけで再生したい ☞ 42ページ

パソコンにつなぐ

本機にHS-V3キット（別売）を使用すると静止画像をパソコンに取り込むことができます。またDV端子付キャプチャーボードを搭載したパソコンにも静止画像を取り込むことができます。

JLIP／デジタル静止画出力端子へ

RS232C端子へ

JLIP　編集　リセット

パソコン

HS-V3キット（別売）を使用します。

DVケーブル（別売：VC-VDV204）

DV出力端子へ

DV端子へ

DV出力

AV出力

S2出力

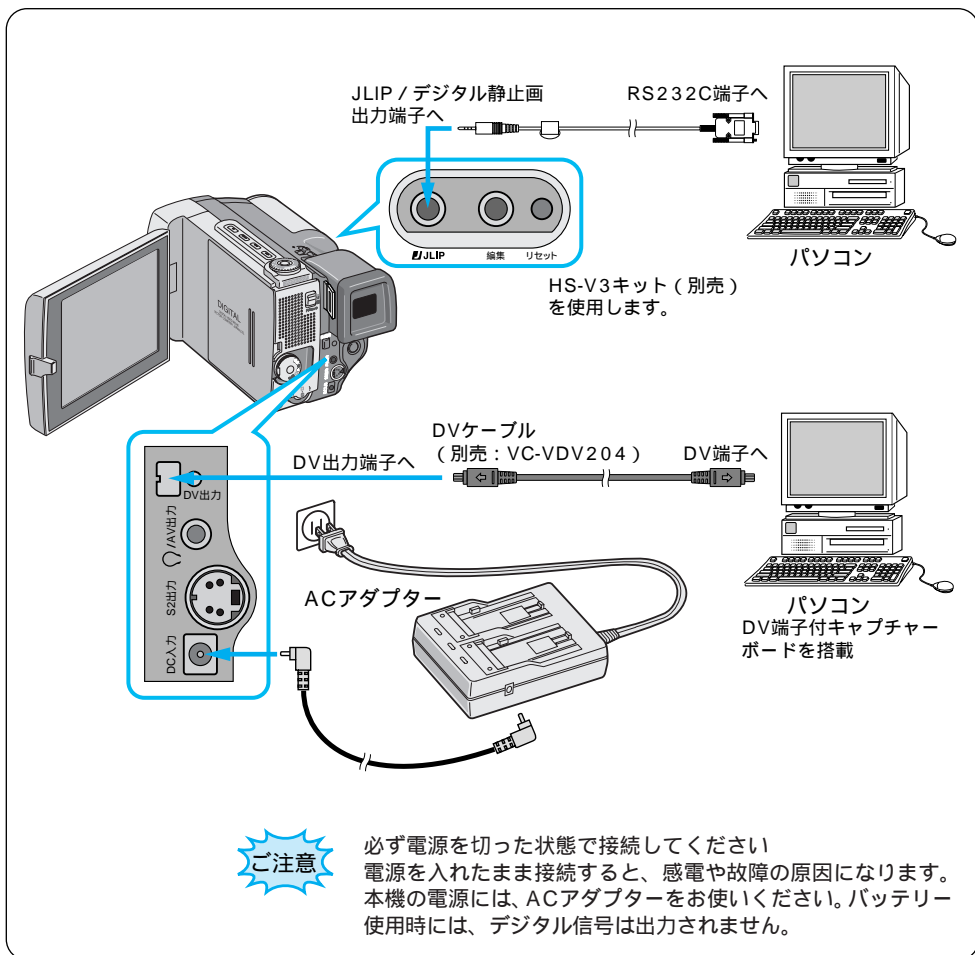
DC入力

ACアダプター

パソコン
DV端子付キャプチャーボードを搭載

ご注意

●必ず電源を切った状態で接続してください
電源を入れたまま接続すると、感電や故障の原因になります。

●本機の電源には、ACアダプターをお使いください。バッテリー使用時には、デジタル信号は出力されません。

●日時情報などは、パソコンに取り込むことができません。

●HS-V3キット／パソコンのDV端子付キャプチャーボードの取扱説明書もご覧ください。

DV端子付ビデオ機器との接続

デジタルプリンターGV-DT1（別売）を使用するとダイレクトプリントやキャプチャー画像をパソコンに送ることができます。またDV端子付ビデオ機器に画像データーをデジタルダビング（画質や音質の劣化がほとんどありません）できます。

DV出力端子へ

DV出力

/AV出力

S2出力

DC入力

DV入力

プリンター

PARALLEL
端子へ

DV出力端子へ

DVケーブル
（別売：
VC-VDV204）

市販のプリンターケーブル
双方向パラレルインターフェース

パラレル（プリンター）
端子へ

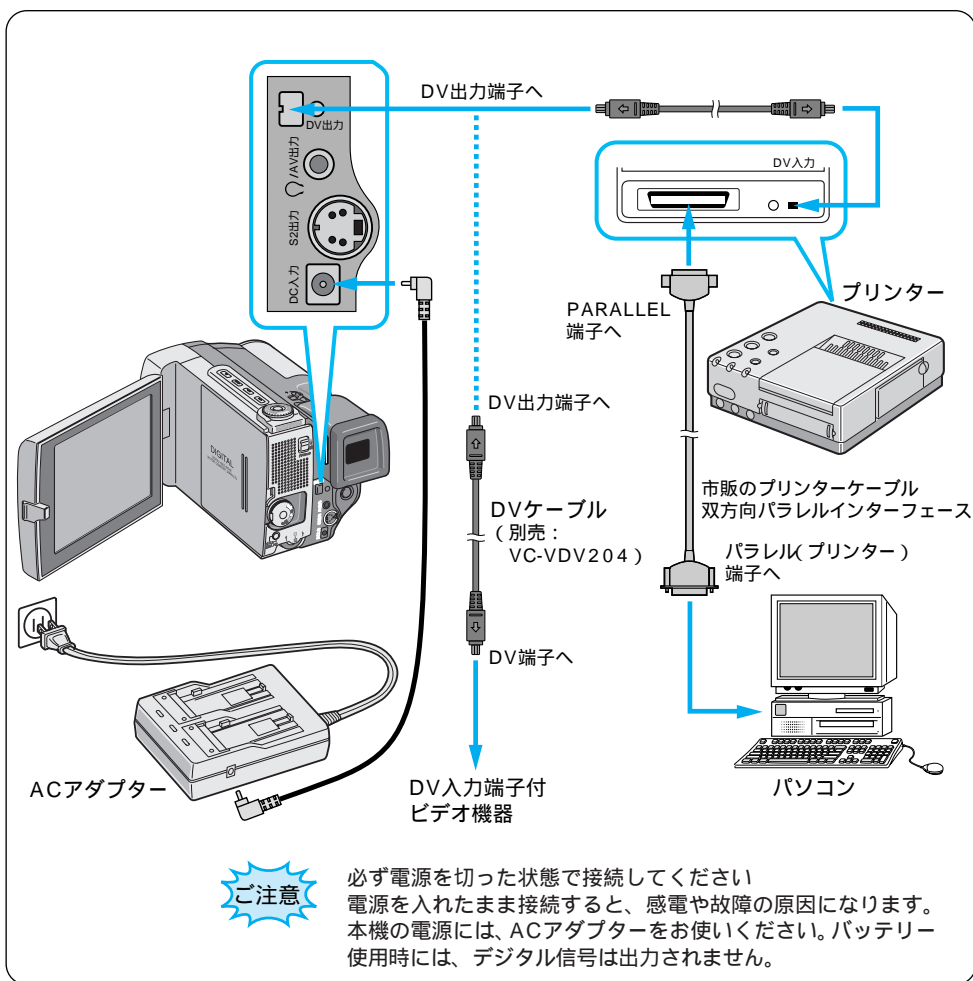
DV端子へ

ACアダプター

DV入力端子付
ビデオ機器

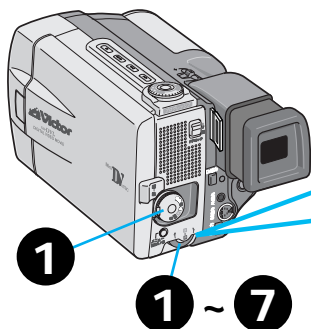
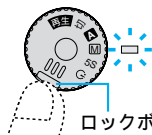
パソコン

ご注意

●必ず電源を切った状態で接続してください
電源を入れたまま接続すると、感電や故障の原因になります。
●本機の電源には、ACアダプターをお使いください。バッテリー使用時には、デジタル信号は出力されません。

●デジタルダビングするときは必ず本機を再生側にお使いください。本機のDV端子は出力のみ可能です。
●接続する機器（DV端子付ビデオ機器、デジタルプリンター、パソコン）などの取扱説明書もご覧ください。

手動（マニュアル）撮影

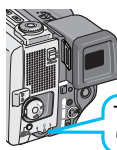
ピントを手で合わせる（マニュアルフォーカス）

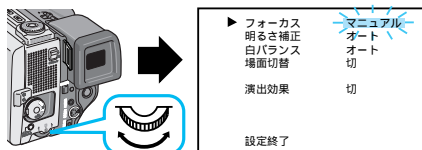
オートフォーカスでは、約1.5センチから無限遠まで自動的にピントが合います。しかし、ピントが合いにくいときや被写体が画面中央にないときは（フルオートモードでは画面中央にピントが合います）、手動でピントを合わせることができます。「フォーカス」はお買い上げになった状態では「オート」に設定されています。

1 電源ダイヤル M で、選択ダイヤルを押す

●メニュー画面が表示されます。

2 選択ダイヤルで「フォーカス」に合わせる

●左右に回して合わせます。

3 選択ダイヤルを押す

❹ 選択ダイヤルで「マニュアル」に合わせる

●左右に回して合わせます。

▶ フォーカス	マニュアル
明るさ補正	オート
白バランス	オート
場面切替	切
演出効果	切
設定終了	

❺ 選択ダイヤルを押す

フォーカス

❻ 選択ダイヤルを回してピントを合わせる

●良く見えるように合わせます。

右いっぱいに回す（最遠点）

左いっぱいに回す（最至近点）

❼ 選択ダイヤルを押す

●設定したフォーカスが固定し、「フォーカス」の表示は「マニュアル」に変わります。固定したピントを合わせ直したいときは、手順1からくり返します。

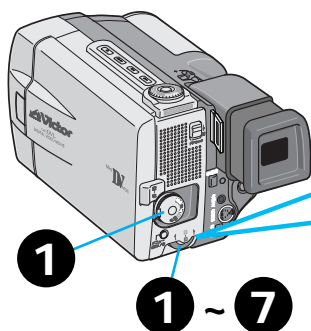
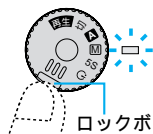
●ピントをオートフォーカスにするには

- 手順4で「オート」を選択する。
- 電源ダイヤルを Ａ に合わせてもオートフォーカスに切り替えることができます。再び電源ダイヤルを Ｍ に戻してもオートフォーカスのままです。

●こんなときに手動でピントを合わせます

- 平らな壁や青空など、コントラスト（明暗差）のほとんどない被写体を撮るとき
- 金網などの障害物が被写体との間にあるとき
- 細かい模様や同じ模様が規則正しく並んでいる被写体を撮るとき
- 蛍光灯などのちらつきのある光源の下で撮影するとき

明るさを手で調節する（明るさ補正）

フルオートモードでは、ムービーは映像の明るさを自動調節して撮影します。しかし背景が明るすぎて被写体が暗くなるときや背景に比べて被写体が明るすぎるときなどは、手動で明るさを調節すると便利です。「明るさ補正」はお買い上げになった状態では「オート」に設定されています。

1 電源ダイヤル M で、選択ダイヤルを押す

●メニュー画面が表示されます。

2 選択ダイヤルで「明るさ補正」に合わせる

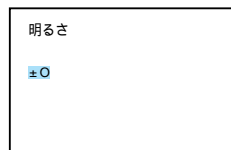
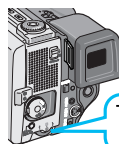
●左右に回して合わせます。

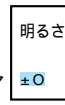
3 選択ダイヤルを押す

液晶画面の明るさ調節 29
選択ダイヤル 23

4 選択ダイヤルで「マニュアル」に合わせる

●左右に回して合わせます。

5 選択ダイヤルを押す

6 選択ダイヤルを回して明るさを調節する

●程良い明るさに調節します。

7 選択ダイヤルを押す

●明るさの補正が固定され「明るさ」の表示は「マニュアル」に変わります。
固定した明るさを合わせ直したいときは、手順1からくり返します。

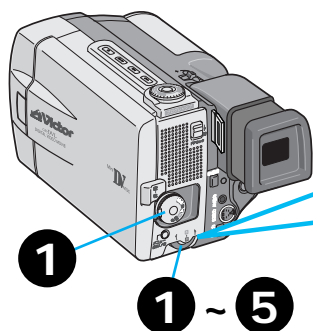
●明るさ調節を自動調節にするには

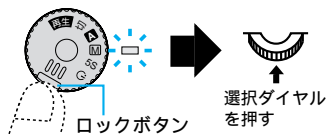
・手順4で「オート」を選択する。
・電源ダイヤルを A に合わせても自動調節にに切り替えることができます。

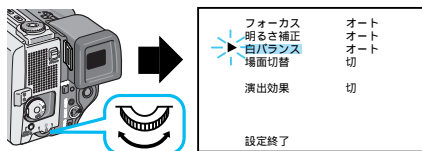
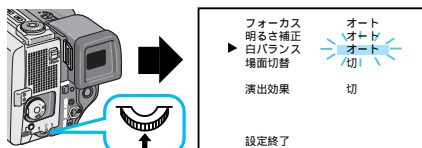
●一定の明るさで撮影するには

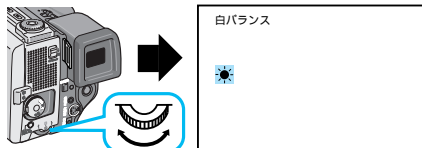
・手順5のあと、選択ダイヤルを2秒以上押す
明るさ調節表示の数字の横 に L が表示されます。
・再度選択ダイヤルを押す
明るさが固定され、「明るさ」の表示は「マニュアル」に変わります。動きのある被写体や、ズーム操作で画面上の被写体を一定にすることができます。

色のバランスを調節する（白バランス）

フルオートモードでは、ムービーは撮影する色のバランスを自動で調節します。しかし、特定の条件で撮影を行うときなどはマニュアルモードで色のバランスを調節すると便利です。手動で色のバランスを調節すると、設定した色のバランスで撮影することができます。「白バランス」はお買い上げになった状態では「オート」に設定されています。

1 電源ダイヤル M で、選択ダイヤルを押す

●メニュー画面が表示されます。

2 選択ダイヤルで「白バランス」に合わせる

●左右に回して合わせます。

3 選択ダイヤルを押す

選択ダイヤルで「☀」に合わせる

●左右に回して合わせます。

次の5つのメニューから選択できます。

- オート ………………… 自動的に色のバランスを調節します。フルオートモードでは「オート」に設定されています。
- ワンタッチ …… あらかじめ被写体に合わせて設定しておいた色のバランスで撮影したいときに選択します。（☞54ページ）
- ☀ ……………………… 晴れた日に屋外で撮影するときに選択します。
- ……………………… 曇りの日や日陰で撮影するときに選択します。
- ……………………… ビデオライトなどで撮影するときに選択します。

選択ダイヤルを押す

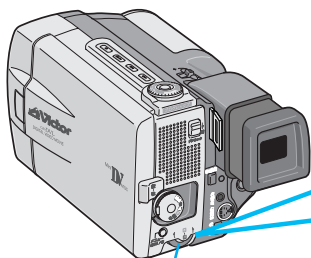
●色バランスが固定され、画面上の「白バランス」が「マニュアル」にかわります。

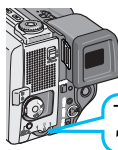
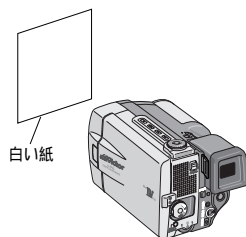
●色のバランス調節を自動調節に戻すには

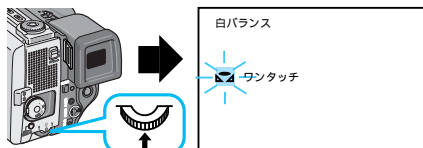
・手順4で「オート」を選択する。

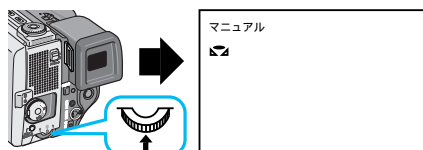
・電源ダイヤルを A に合わせても自動調節に切り替えることができます。

ワンタッチで色のバランスを設定する

被写体に合った色のバランスを「ワンタッチ」に設定しておく方法を説明します。

1 前ページ(☞ 53ページ)の手順4で「[icon]」を選ぶ

●ワンタッチを選びます。

2 被写体の前に白い紙を置き、画面いっぱいに白い紙を映します。

❸ 選択ダイヤルを、「[ワンタッチ]」が点滅するまで押し続ける

●「[ワンタッチ]」の点滅が止まったところの色のバランスが、ワンタッチに記憶されます。

❹ 選択ダイヤルを押す

●画面上の「ワンタッチ」が「[ワンタッチ]」だけになり「白バランス」が「マニュアル」になります。

●設定した色のバランスは
「ワンタッチ」に別の色のバランスを設定するまで記憶されています。

●室内で撮影するときは
外光、蛍光灯、ロウソクの光など、いろいろな光源が被写体にあたります。光によって色温度（☞121ページ）が異なるため、自然な色合いで撮影したいときは色のバランスを調節してください。

●色紙を使って色のバランスを調節するときは
手順2で色紙を置いて色のバランスを調節すると、白い紙を置いて調節したときとはちょっと変わった色合いの撮影がお楽しみいただけます。

例）
赤い紙で調節した場合　：青緑がかった色で撮影されます。
青い紙で調節した場合　：オレンジ色で撮影されます。
黄色い紙で調節した場合：青紫がかった色で撮影されます。

応用操作

変化をつけてビデオをつなぐ（場面切替）

ここでは場面と場面の間に変化を付けてビデオをつなぐ方法を説明します。場面切替は次のメニューから利用することができます。

分　類	メニューアイコン	効　果
白・黒画面で切替	**フェーダー：白**	白い画面でフェードイン、フェードアウトします。
	フェーダー：黒	黒い画面でフェードイン、フェードアウトします。
	フェーダー：白黒	白黒画面からカラー画面にフェードインし、カラー画面から白黒画面にフェードアウトします。
	ワイプ：コーナー	黒い画面の右上から左下へ映像が徐々にワイプインし、左下から右上へワイプアウトします。
	ワイプ：ウィンドウ	黒い画面の中心から映像が徐々にワイプインし、画面の中心へワイプアウトします。
	ワイプ：スライド	黒い画面の右から左へ映像が徐々にワイプインし、左から右へワイプアウトします。
	ワイプ：ドア	黒い画面から映像が左右にドアを開けていくように徐々にワイプインし、閉めていくようにワイプアウトします。
	ワイプ：スクロール	黒い画面から映像が下から上へ徐々にワイプインし、上から下へワイプアウトします。
	ワイプ：シャッター	黒い画面の中央から映像が上下に徐々にワイプインし、上下から中央にワイプアウトします。

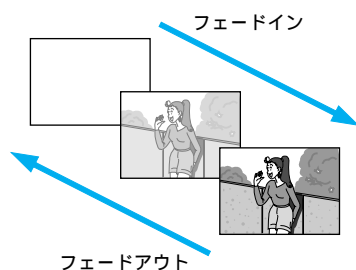
分　類	メニューアイコン	効　果
最後の映像（静止画）で切替	P **オーバーラップ**	最後に撮った映像から次の撮影の映像が徐々に浮かび上がっていくように場面を切り替えます（オーバーラップ）。
	P **ワイプ：コーナー**	最後に撮った映像の右上から左下へ徐々にワイプインします。
	P **ワイプ：ウィンドウ**	次の撮影の映像が、最後に撮った映像の中心から徐々にワイプインします。
	P **ワイプ：スライド**	次の撮影の映像が、最後に撮った映像の右から左に徐々にワイプインします。
	P **ワイプ：ドア**	次の撮影の映像が、最後に撮った映像から左右にドアを開けていくように徐々にワイプインします。
	P **ワイプ：スクロール**	次の撮影の映像が、最後に撮った映像の下から上に徐々にワイプインします。
	P **ワイプ：シャッター**	次の撮影の映像が、最後に撮った映像の中央から上下に徐々にワイプインします。
ランダムに切替	?R **ランダム**	「白・黒画面で切替」メニューの中から使用するメニューをムービーがランダムに選び、場面を切り替えていきます。
―	**切**	「場面切替」を使用しないときに選択します。

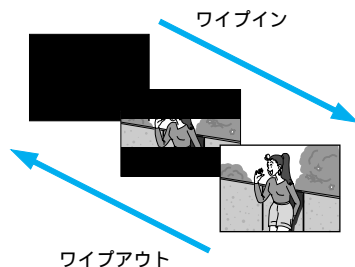
場面切替の映像効果

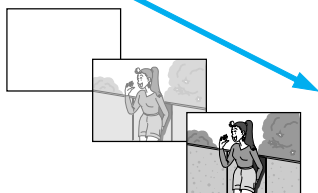
実際に「画面切替」をご利用になる前に、各メニューではどのように映像がつながるのかをイラストを使って説明します。

「白・黒画面で切替」メニューを使ったときの効果

1）フェーダー効果

ビデオの撮り始めと撮り終わりをフェードイン、フェードアウトでつなぎます。「フェーダー：白」「フェーダー：黒」「フェーダー：白黒」メニューがご利用いただけます。

2）ワイプ効果

ビデオの撮り始めと撮り終わりをワイプイン、ワイプアウトでつなぎます。
「ワイプ：コーナー」「ワイプ：ウィンドウ」「ワイプ：スライド」「ワイプ：ドア」「ワイプ：スクロール」「ワイプ：シャッター」メニューがご利用いただけます。

「ランダムに切替」メニューを使ったときの効果

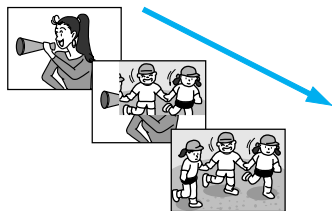
「白・黒画面で切替」メニューの中から使用するメニューをムービーがランダムに選び、画面を切り替えていきます。

「最後の映像（静止画）で切替」メニューを使ったときの効果

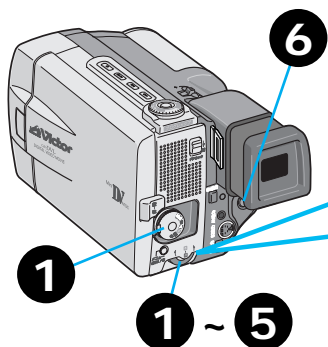
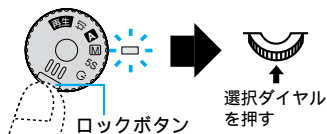
1）オーバーラップ

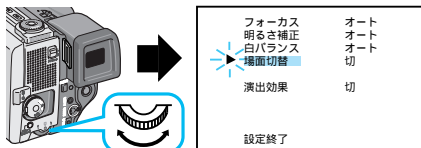
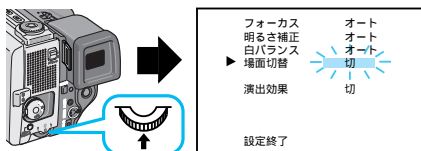
ビデオの撮り始めをオーバーラップでつなぎます。

2）アイコンにPの付いているワイプ効果

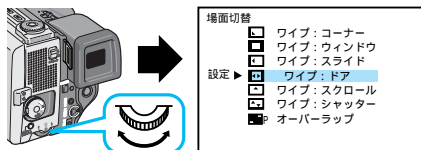
ビデオの撮り始めをワイプインでつなぎます。「ワイプ：コーナー」「ワイプ：ウィンドウ」「ワイプ：スライド」「ワイプ：ドア」「ワイプ：スクロール」「ワイプ：シャッター」がご利用いただけます。

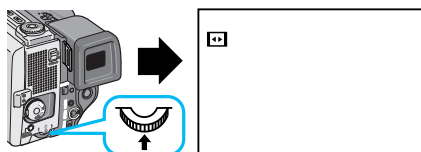
応用操作

場面切替を設定する

撮影中に、場面と場面のつなぎに変化をつけたいときにお使いください。

1 電源ダイヤル M で、選択ダイヤルを押す

2 選択ダイヤルで「場面切替」に合わせる

●左右に回して合わせます。

3 選択ダイヤルを押す

4 選択ダイヤルで「ワイプ：ドア」に合わせる

●お好みの場面切替を選択します。

5 選択ダイヤルを押す

●「場面切替設定」画面が消え、選択したメニューが設定されます。
画面の左上に選択したメニューのアイコンが表示されます。

6 スタート/ストップボタンを押す

●選択したメニューでビデオを撮り始めます。

●もう一度スタート/ストップボタンを押すと選択したメニューでビデオを撮り終えます。画面に「ストップ」と表示されます。

●手振れ補正が「入」のときは
場面切替はできません。
手振れ補正を「切」にしてください。（☞96ページ）

●電源を切ってしまったときは
「最後の映像で切替」（アイコンにPの付いている切替）を設定したとき、電源が切れると、ムービーに記憶されている最後の映像が消えてしまいます。このとき、画面切替設定アイコンが点滅しますので、もう一度通常の撮影をしてから場面切替を行ってください。撮影一時停止を5分以上続けても電源が切れますので、注意してください。

●場面切替設定をやめたいときは
「場面切替を設定する」の手順4で「切」を選択します。

●場面切替設定と演出効果設定（☞56、62ページ）を一緒に使うと
さらに効果的なビデオ撮影をお楽しみいただけます。ただし、演出効果設定と一緒に使えないメニューがあります。
場面切替設定アイコンが点滅して、使えない機能であることをお知らせします。

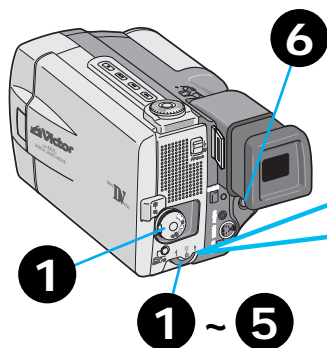
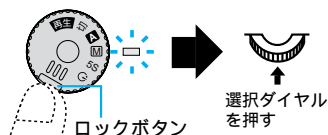
映像に変化をつける（演出効果）

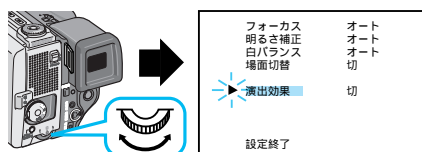
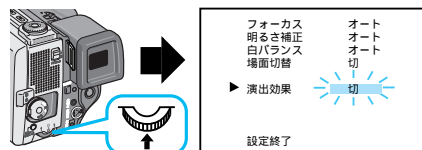
ここでは、映像そのものに変化をつけてビデオを撮る方法を説明します。被写体を何重にも重ねて撮影したり、暗い場所の被写体を明るく撮ることなどができます。演出効果は全部で１１種類のメニューをご利用いただけます。

メニューアイコン	効　果
1/60 シャッター1/60	シャッタースピードを１/６０に固定します。テレビ画面などを撮影するときに出る黒い帯は細くなります。
1/100 シャッター1/100	シャッタースピードを１/１００に固定します。蛍光灯や水銀灯の光で撮影するときに出るちらつきは少なくなります。
1/250 シャッター1/250	シャッタースピードを１/２５０に固定します。動きの早いものを１コマ１コマ鮮明に撮ることができます。シャッタースピードが早くなればなるほど画面が暗くなるので、できるだけ明るい場所で撮影してください。
1/500 シャッター1/500	シャッタースピードを１/５００に固定します。動きの早いものを１コマ１コマ鮮明に撮ることができます。シャッタースピードが早くなればなるほど画面が暗くなるので、できるだけ明るい場所で撮影してください。
夜景	夜景などを撮るとき、映像がザラザラせず、自然な感じで記録することができます。「白バランス」は ☀ になりますが、お好みの設定に変えることができます。 また、「夜景」を選択すると手動フォーカス表示が出ます。被写体にフォーカスが合わないときは、手動で合わせるか、またはオートフォーカスで合わせてください。

メニューアイコン	効　果
セピア	古い写真のようなセピア色で映像を記録します。「ワイド効果」の「ワイド」や「シネマ」（P94）と合わせて使うと、古い白黒映画のような雰囲気をお楽しみいただけます。
B/W ブラック/ホワイト	映像を白黒で記録します。「ワイド効果」の「ワイド」や「シネマ」と合わせて使うと、白黒映画のような雰囲気をお楽しみいただけます。
映画効果	早いコマ落とし効果を付けて映像を記録します。
ストロボ	コマ落としの効果で、連続写真のように記録します。
高感度	暗い場所の映りにくい被写体を、通常よりも約2倍明るく浮かび上がらせて撮影することができます（シャッター速度:1/30秒）。
ゴースト	被写体が何重にもなって撮影されます。幻想的な雰囲気を出したいときなどに効果的です。
切	「演出効果」を使用しないときに選択します。

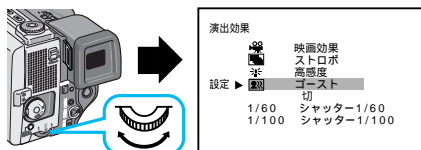
演出効果を設定する

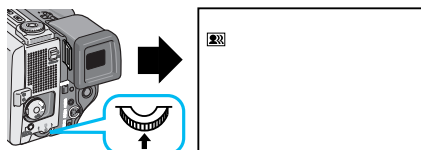
演出効果選択メニューの中から、お好みの効果を1つえらんでお使いになれます。

1 電源ダイヤル M で、選択ダイヤルを押す

2 選択ダイヤルで「演出効果」に合わせる

●左右に回して合わせます。

3 選択ダイヤルを押す

●演出効果設定と場面切替設定を一緒に使うと
さらに効果的なビデオ撮影をお楽しみいただけます。ただし、場面切替設定と一緒に使えないメニューがあります。演出効果設定アイコンが点滅して、使えない機能であることをお知らせします。

❹ 選択ダイヤルで「ゴースト」に合わせる

●お好みの演出効果を選択します。

❺ 選択ダイヤルを押す

●「演出効果設定」画面が消え、選択したメニューが設定されます。画面の左上に選択したメニューのアイコンが表示されます。

❻ スタート/ストップボタンを押す

●選択したメニューでビデオを撮り始めます。

●もう一度スタート/ストップボタンを押すと選択したメニューでビデオを撮り終えます。画面に「ストップ」と表示されます。

●手振れ補正が「入」のときは

演出効果はできません。(シャッターを除く)

手振れ補正を「切」にしてください。(☞ 96ページ)

●演出効果設定をやめたいときは

手順4で「切」を選択します。

●シャッターメニューを使うときは

シャッタースピードが速くなればなるほど画面が暗くなります(1/60、1/100、1/250、1/500の順で暗くなります)。できるだけ明るい場所で撮影してください。

●高感度メニューを使うときは

暗いところでのみお使いください。撮影した映像はコマ落としのようになります。手動フォーカス表示が出て点滅したときは、ピントを手動で合わせ、三脚などで固定してください。

●ゴーストを設定しているときは

デジタルズーム(☞ 37ページ)はご利用いただけません。

プログレッシブモード撮影

動画の撮影

プログレッシブモードで動画撮影をすると、ブレのない高画質の静止画像を再生できます。高解像度の静止画像をパソコンで加工したりやプリンターで出力も可能です。

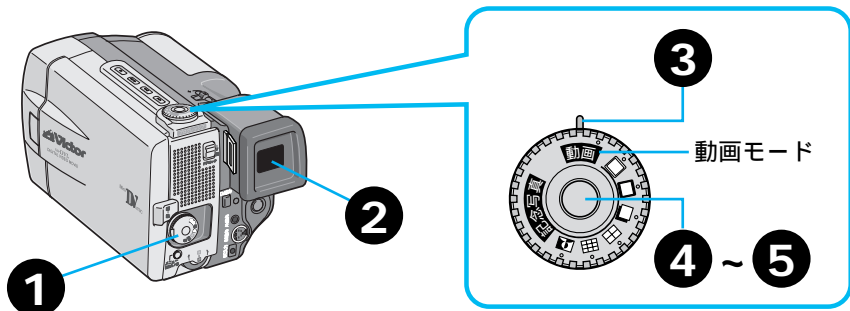
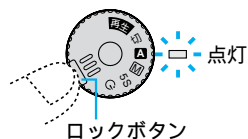
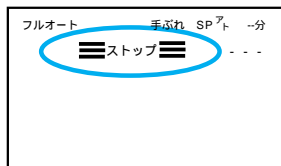
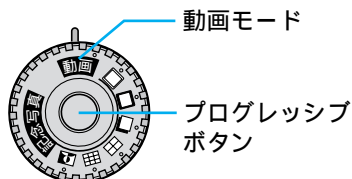
1 電源ダイヤルの
ロックボタンを押しながら
A に合わせる

再生
A
M
点灯
ロックボタン

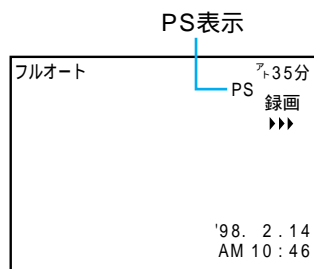
2 **ファインダーを引き出す**

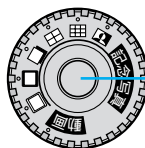
ピッ

●電源が入り、電動でレンズカバーが開きます。

フルオート
手ぶれ SP
--分
ストップ
---

3 **プログレッシブダイヤルを回し「動画」に合わせる**

4 プログレッシブボタンを押す

●高画質録画が始まります。

●撮影中ランプが点灯します。

5 プログレッシブボタンを押す

●録画一時停止します。

●再生するとややぎごちない動きになります。

●プログレッシブボタンを押さずに、スタート／ストップボタンを押して録画を開始すると、通常の撮影モードになります。PS表示が消えます。

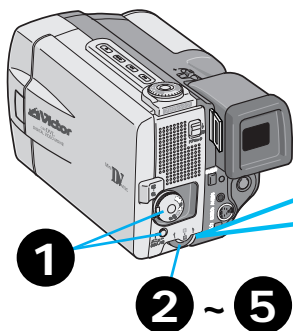
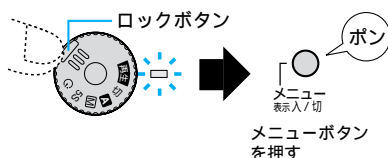
●プログレッシブ動画撮影中に記念写真を撮影したいときは、プログレッシブダイヤルをお好きな記念写真モードに合わせて、プログレッシブボタンを押します。撮影を止めるときは、プログレッシブダイヤルを「動画」に合わせてから、プログレッシブボタンを押します。

●「P」付場面切替はできません。

●演出効果（シャッターを除く）はできません。

色々な再生

再生音声を切り替える（48kHz音声切替／32kHz音声切替）

DV方式には48kHzと32kHzの2つの音声モードがあり、撮影時に指定することができます。ここでは、その音声を再生する方法を説明します。32kHzで撮影されたテープは、アフレコ編集（P93）した後の音声を、撮影時の音声のみ、アフレコ音声のみ、撮影時の音声とアフレコ音声同時の3通りから選択して再生することができます。48kHzで撮影されたテープは、録音したままの音声を高音質のステレオ音声で再生します。「48kHz音声切替」と「32kHz音声切替」メニューは、お買い上げになった状態ではそれぞれ「フル音声」と「音声1」に設定されています。

1 電源ダイヤル 再生 で、メニューボタンをポンと押す

2 選択ダイヤルで「32kHz」に合わせる

●左右に回して合わせます。

3 選択ダイヤルを押す

48kHz音声切替 フル音声
▶32kHz音声切替 音声1
シンクロ補正 0.0
日時表示 入
タイムコード 切

メニュー終了

選択ダイヤルで「音声2」に合わせる

●お好みの項目を選択します。

メニュー名	項目	出力される音声
48kHz	フル音声	撮影時の音声がステレオ音声で再生されます。
	音声1	左（L）の音声が再生されます。
	音声2	右（R）の音声が再生されます。
32kHz	フル音声	撮影時の音声とアフレコ音声が同時にステレオ音声で再生されます。
	音声1	撮影時の音声がステレオ音声で再生されます。
	音声2	アフレコ音声がステレオ音声で再生されます。

選択ダイヤルを押す

●「音声2」の点滅が消え、選択が確定します。カーソルは自動的「メニュー終了」に移動します。

選択ダイヤルを押す

●メニューを終了し、通常の画面に戻ります。画面に選択した音声の表示がでます。

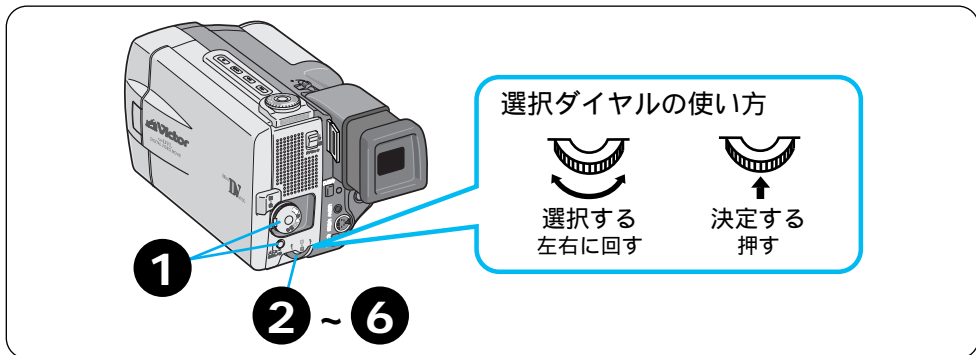
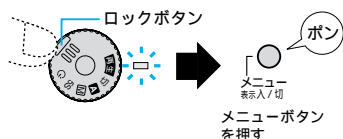
●リモコンで再生時の音声を切り替えるときは

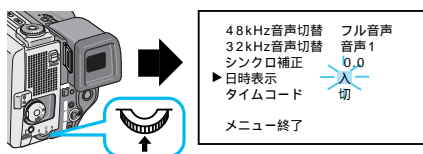
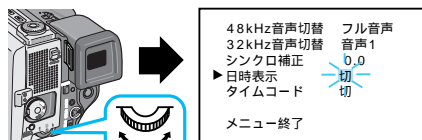
メニュー選択画面を表示しなくても、「音声切替ボタン」を押すたびに「フル音声→音声1→音声2→フル音声→...」の順に音声が切り替わります。

●再生中の音声モードを確認するには

ムービーは、ビデオの音声モードを自動判別して再生します。ビデオを再生すると、画面の左上端に再生中の音声モードが表示されます（早送り/巻戻し再生中は自動判別できません）。

日時の表示

ビデオを撮影すると、撮影した日時が自動的にビデオに記録されます。ここでは、ビデオを再生するときに撮影した日時を表示させる方法を説明します。「日時表示」メニューはお買い上げ時には「入」に設定されています。表示を出すときは「入」、消すときは「切」にします。

1 電源ダイヤル 再生 で、メニューボタンをポンと押す

2 選択ダイヤルで「日時表示」に合わせる

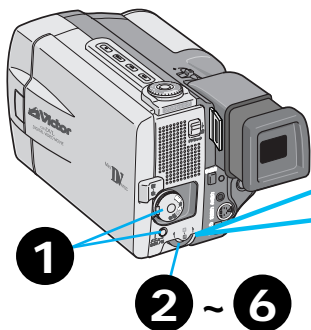
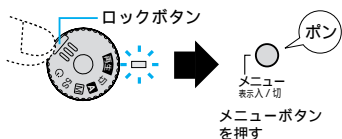
3 選択ダイヤルを押す

4 選択ダイヤルで「切」に合わせる

5 選択ダイヤルを押す

6 選択ダイヤルを押す

●メニューを終了し、通常の画面に戻ります。

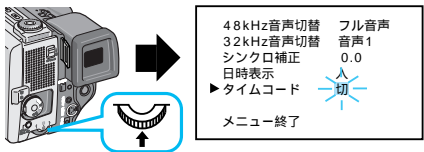
●表示が出ないときは
画面表示入/切ボタン（☞23ページ）を約1秒以上押します。

タイムコードの表示

ビデオを撮影すると、タイムコード（ビデオ撮影開始からの「分:秒:フレーム」）が自動的にビデオに記録されます。タイムコードはビデオを編集するときなどに使用します。
ここでは、ビデオを再生するときにタイムコードを表示させる方法を説明します。「タイムコード」メニューはお買い上げ時には「切」に設定されています。

1 電源ダイヤル 再生 で、メニューボタンをポンと押す

2 選択ダイヤルで「タイムコード」に合わせる

3 選択ダイヤルを押す

4 選択ダイヤルで「入」に合わせる

5 選択ダイヤルを押す

6 選択ダイヤルを押す

- メニューを終了し、通常の画面に戻ります。
- 画面左下にタイムコードが表示されます。

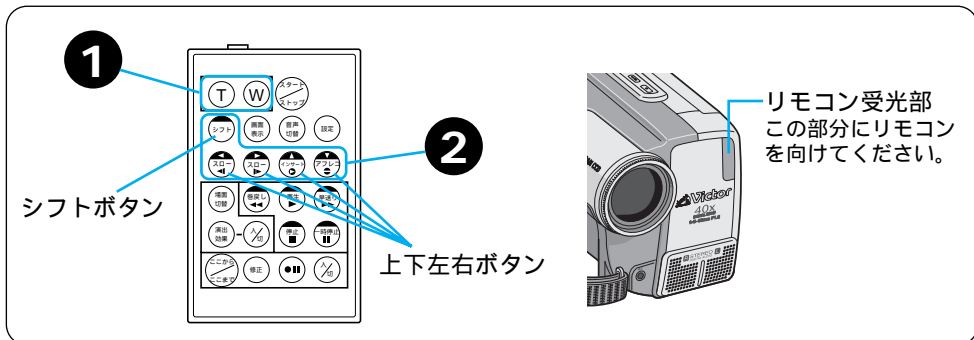
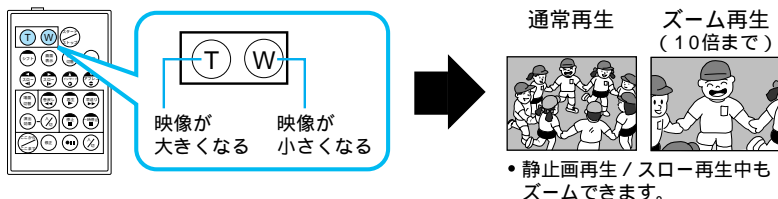
演出効果のゴースト 63
静止画再生／スロー再生 43

再生ズーム、画面の移動

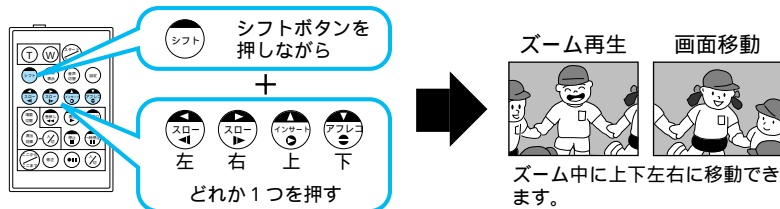
別売のリモコン（☞100ページ）を使うと、ムービーでビデオを再生しているときに、画面をズームすることができます。また、ズームした映像の中のお好きな場所に画面を移動させることができます。ここでは画面のズームと移動方法を説明します。

1 ムービーの再生中にリモコンの Ⓣ または Ⓦ を押す

通常再生

ズーム再生
（10倍まで）

• 静止画再生／スロー再生中もズームできます。

2 シフトボタンを押しながら上下左右ボタンを押す

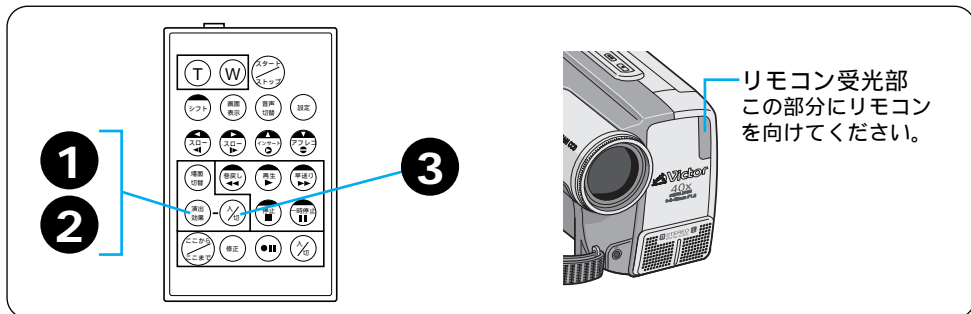
ズーム再生　画面移動

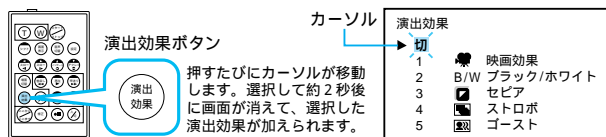
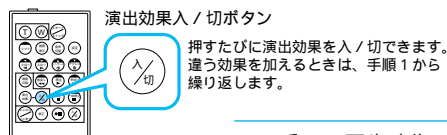
ズーム中に上下左右に移動できます。

●ズームをやめたいときは
通常の再生画面の大きさに戻るまで Ⓦ を押します。または、リモコンの停止ボタンを押した後に再生ボタンを押します。

●ズームしたときの映像は
通常の再生画面よりも多少再生映像が粗くなります。

●再生映像に「ゴースト」を加えたときは
ズーム中でも通常再生画面に戻ります。

再生画面に演出効果を加える

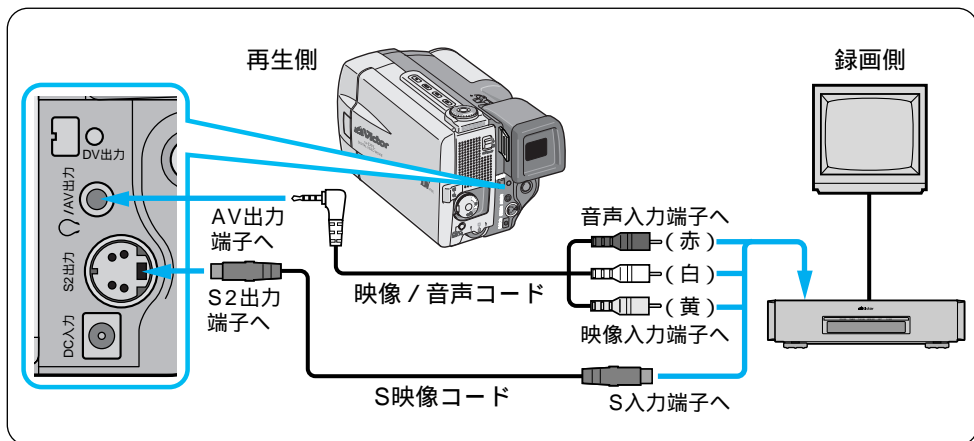
別売のリモコン（☞100ページ）を使うと、テープを再生しているときに画面に演出効果（☞62ページ）を加えることができます。ここでは再生画面に演出効果を加える方法を説明します。

1 ムービーの再生中に
リモコンの演出効果ボタンを押す

2 演出効果ボタンを押して演出効果を選ぶ

3 演出効果を加えたい場面で
演出効果入/切ボタンを押す

- **再生映像に「ゴースト」を加えたときは**ズーム中でも通常再生画面に戻ります。
- **演出効果が入のときは、記念写真撮影はできません。**

応用操作

演出効果を加えてダビング 73
音声モード表示 28

ダビングする

ここでは、本機撮影したテープをビデオデッキを使ってダビングする方法を説明します。S映像端子付きのビデオデッキと本機をS映像コードを使ってダビングすると、より高画質の映像をダビングできます。

1 電源を入れない状態で

本機とビデオデッキを接続する

●S映像コードでビデオをダビングするときは、本機のS2出力端子とビデオデッキのS入力端子を接続してください。

2 本機を再生し、ダビングしたいところで

ビデオデッキの録画ボタンを押す

●本機またはリモコンを操作してテープを再生してください。

●ビデオデッキでダビングする前に
ご使用になるビデオデッキの取扱説明書もお読みください。

●カットしたい映像があるときは
ビデオデッキの一時停止ボタンを押してダビングを一時停止させ、ダビングしたい場面をテレビや液晶画面に表示させてから再開してください。

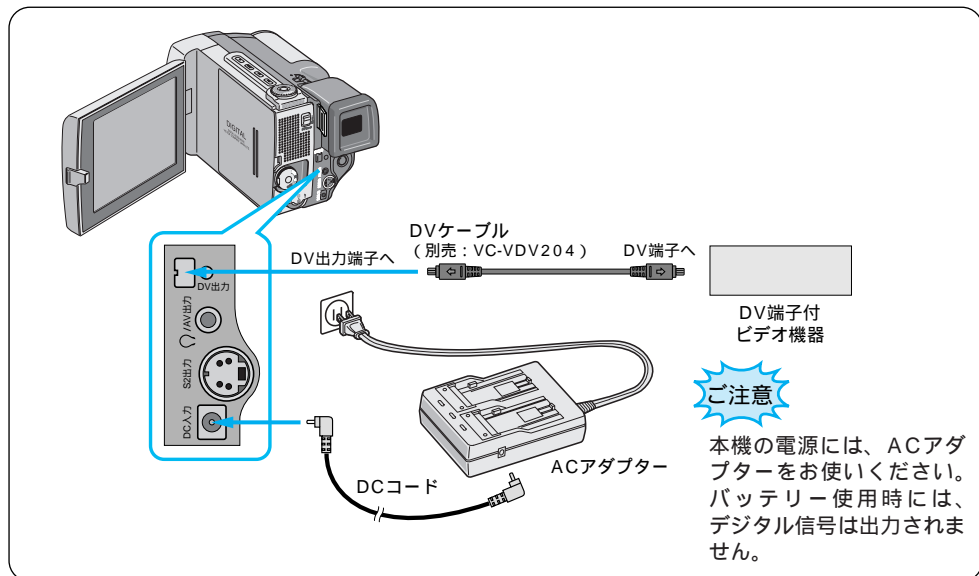
●ダビングを終了したいときは
ビデオデッキの録画停止ボタンを押します。

●画面に表示されるメッセージを消してダビングしたいときは
テレビの画面に表示されるメッセージは、そのままダビングされます。メッセージを消してからダビングしてください。「音声モード表示」（☞ 28ページ）を消したいときは、リモコンの画面表示ボタンを押します。「日時表示」や「タイムコード表示」を消したいときは、メニュー選択画面で「日時表示」または「タイムコード」を「切」に設定します（☞ 70、71ページ）。

デジタルダビング

ここでは、DV端子付ビデオ機器にダビングする方法を説明します。デジタル信号でダビングするために画質や音質の劣化がほとんどありません。

ご注意

●**本機の電源には、ACアダプターをお使いください。バッテリー使用時には、デジタル信号は出力されません。**

1

電源を入れない状態で

ムービーとDV端子付ビデオ機器を接続する

●DVケーブル（別売）で、ムービーのDV出力端子とDV端子付ビデオ機器DV端子を接続してください。

2

ムービーを再生し、ダビングしたいところで

DV端子付ビデオ機器の録画ボタンを押す

●ムービーまたはリモコンを操作してテープを再生してください。

●**ムービーでダビングするときは**
必ず本機を再生側にしてください。ムービーのDV端子は出力のみ可能です。

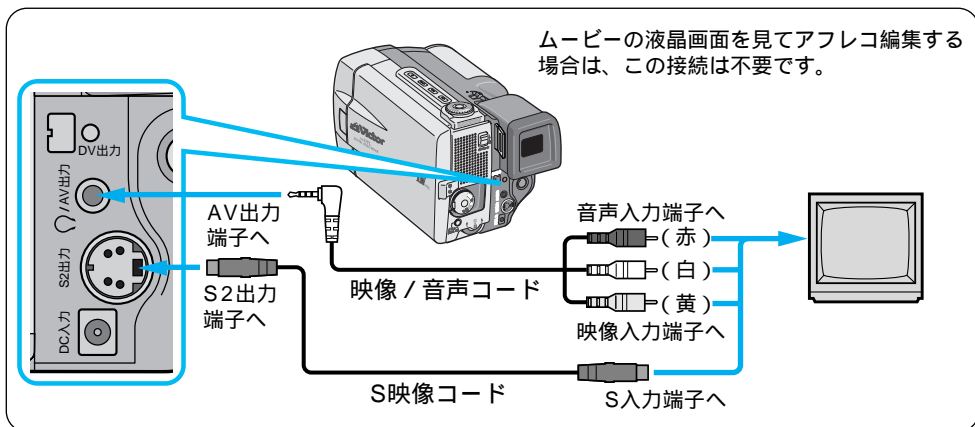
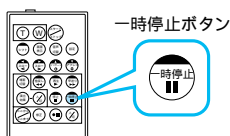
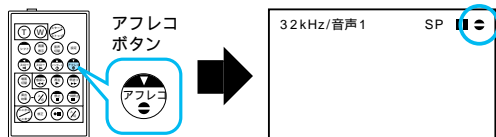
●**再生側が無記録部分を再生すると**
異常な映像が記録されることがあります。

●**「場面切替」「演出効果」を設定しているとき**
DV出力端子からは、テープの再生映像しか出ません。

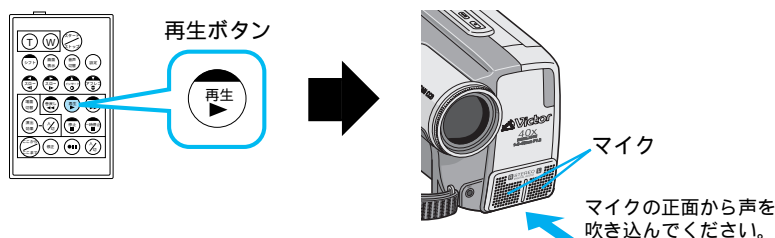
●**映像が出ないときは**
正しくDVケーブルを接続していても、映像がでないときがあります。電源を切って再度ケーブルを接続し直してください。

●**特殊再生したときは**
早送り再生やスロー再生した映像をダビングすると、粗い画像になったり、他機で再生したとき画像がつぶれることがあります。

音声を加える（アフレコ編集）

録画モードSPで、音声モードを32kHzで撮影しておくと、後でオリジナルテープにナレーションなどを追加することができます。アフレコ編集は、別売のリモコン（☞ 100ページ）を使用して行います。

1 テープを再生し、アフレコ編集したい場面で
ムービーを一時停止させる

2 リモコンの
アフレコボタンを押しながら一時停止ボタンを押す
●画面にアフレコ編集アイコンが表示されます。

●アフレコ編集で吹き込んだ音声は
撮影時の音声とは別に、アフレコ編集した声がステレオ音声で記録されます。

❸ リモコンの
再生ボタンを押し、ムービーのマイクに向かってナレーションなどを吹き込む

●アフレコ編集が始まり、吹き込んだ声が記録されます。

❹ 停止ボタンを押して、アフレコ編集を終了する

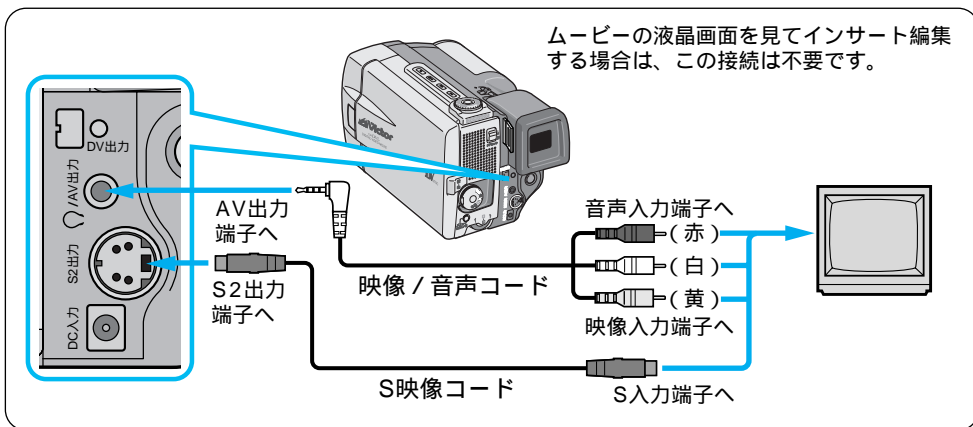
●画面に「音声アフレコできません」と表示されたときは
LPモードで撮影したテープ、または48kHzで音声を記録したテープにはアフレコ編集できません。

●別の場面からアフレコ編集を再開したいときは
リモコンの「一時停止ボタン」を押します。ビデオが静止画になります。リモコンの停止ボタンを押してアフレコ編集を終了し、アフレコ編集を再開したい場面を表示させてから再び編集を行ってください。

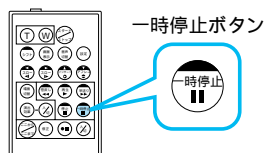
●別売のステレオマイクを使ってアフレコ編集したいときは
ムービーのステレオマイク入力端子（☞22ページ）にマイクを接続してナレーションなどを吹き込みます。
プラグカバー部が8mm以下の抵抗入りタイプをお使いください。

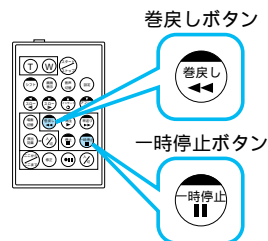
●自分の声を聞きながらアフレコ編集したいときは
アフレコ編集中の声は、ムービーのスピーカーからは出ません。ムービーのAV出力端子（☞24ページ）に別売のヘッドホンを接続して、声を聞いてください。

映像を入れかえる（インサート編集）

録画モードSPで撮影済みのテープに、後でタイトルなど別の場面を挿入することができます。タイトルを書いた紙などを用意してからインサート編集を行ってください。インサート編集は別売のリモコン（☞100ページ）を使用して行います。

1 テープを再生し、インサート編集を終える場面で

ムービーを一時停止させる

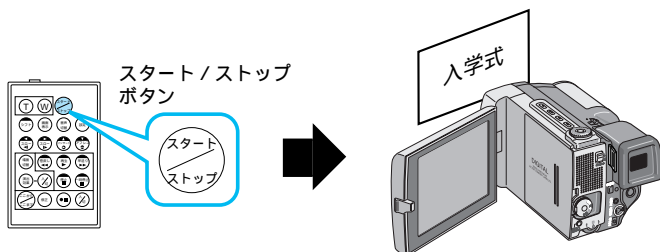
●終える場面のタイムコードを確認してください。

2 インサート編集を開始する個所まで

ムービーを巻き戻し、一時停止ボタンを押す

●タイムコードが液晶画面に表示されていないときは
☞71ページ

●インサート編集中画面に演出効果を加えたいときは
☞62ページ

❸ リモコンの
インサートボタンを押しながら一時停止ボタンを押す

●液晶画面にインサート編集アイコンとタイムコードが表示されます。

❹ リモコン、またはムービーのスタート/ストップボタンを押して、用意してあるタイトルなどをインサートする

❺ リモコンのスタート/ストップボタンを押して、手順1で確認したタイムコードの位置でインサートを終了する

❻ 停止ボタンを押して、インサート編集を終了する

●画面に「インサート編集できません」と表示されたときは
LPモードで撮影したテープにはインサート編集できません。

●インサート編集した後の映像と日時は
「映像エリア」と「サブコードエリア」に新しい映像と日時が上書きされます。

●こんなときはきれいにインサート編集できません
テープの無記録部分でインサート編集すると、映像や音声が乱れることがあります。

応用操作

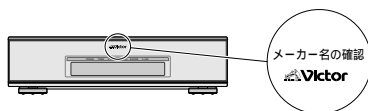
ビデオを自動で編集する（自動編集）

撮影済みのビデオの中からお好きな場面を8場面まで選んで、ビデオデッキのテープに自動的にダビングすることができます。あらかじめアフレコ編集（☞ 76ページ）やインサート編集（☞ 78ページ）してあるビデオを編集すると、テレビドラマや映画のようなビデオを作成することができます。編集する場面と場面の間に場面切替効果（☞ 56ページ）を挿入したり、演出効果（☞ 62ページ）を使って映像そのものに変化をつけることもできます。自動編集は、ムービー、および別売のリモコン（☞ 100ページ）とご家庭のビデオデッキを接続して行います。

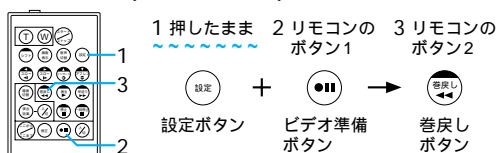
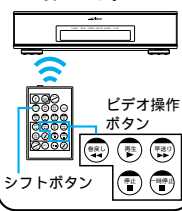
ビデオデッキをリモコンに登録する

自動編集では、別売のリモコンを使用してご家庭のビデオデッキを操作します。ここでは、自動編集を行う前に、ご家庭のビデオデッキのメーカーをリモコンに登録する方法を説明します。ビデオデッキをリモコンに登録しておくと、自動編集以外でもリモコンでご家庭のビデオを操作できるようになります。

1 ビデオデッキの電源を切る

2 ご使用のビデオデッキのメーカー名を確認する

3 設定ボタンを押したまま「メーカー別リモコン設定表」（次ページ）に対応したボタンを順番に押す

●ビデオデッキの電源が入れば設定終了です。
●同じメーカーでも信号の種類は複数あります。
●「リモコン信号A」でビデオデッキが反応しないときは、「リモコン信号B」「リモコン信号C」…の順でボタンを押してください。

例：ビクター（リモコン信号A）の場合

リモコンメーカー設定表

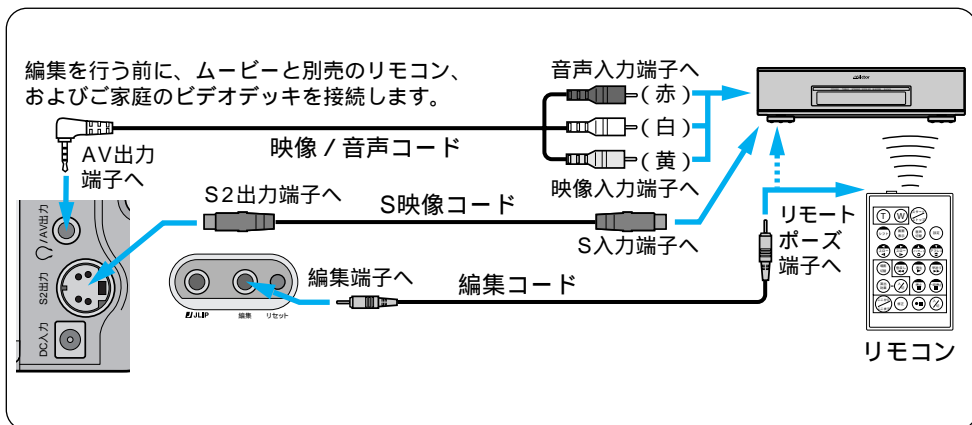
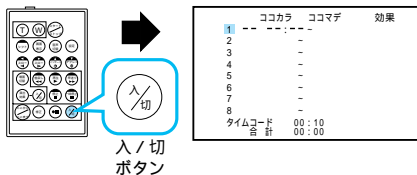
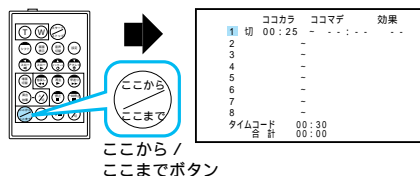
メーカー名	リモコン信号	リモコンのボタン1	リモコンのボタン2
ビクター	A	ビデオ準備	巻戻し
	B	ビデオ準備	停止
	C	ビデオ準備	シフト
アカイ	A	停止	早送り
	B	停止	再生
	C	ここから/ここまで	ここから/ここまで
サンヨー	A	停止	再生
	B	シフト	一時停止
	C	シフト	プログラム編集入/切
	D	ここから/ここまで	ビデオ準備
シャープ	A	巻戻し	一時停止
	B	巻戻し	プログラム編集入/切
ソニー	A	停止	一時停止
	B	停止	プログラム編集入/切
	C	シフト	ビデオ準備
	D	シフト	巻戻し
東芝	A	停止	ビデオ準備
	B	停止	巻戻し
NEC	A	シフト	ここから/ここまで
	B	シフト	修正
日立	A	停止	停止
	B	停止	シフト
フナイ	A	ここから/ここまで	シフト
松下	A	巻戻し	シフト
	B	巻戻し	ここから/ここまで
	C	巻戻し	巻戻し
	D	ビデオ準備	再生
	E	巻戻し	修正
三菱	A	停止	ここから/ここまで
	B	停止	修正

●リモコンのボタン電池がなくなったときは
設定したビデオデッキのメーカー設定も消えてしまいます。ボタン電池を交換してメーカー設定をやり直してください。

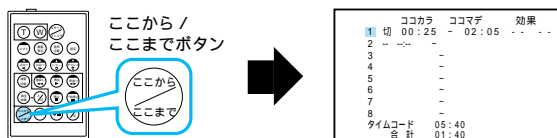
●リモコンでビデオデッキを操作できないときは
機種によってはリモコンでのビデオデッキのメーカー設定ができないものや、特定のボタンだけ操作できないものもあります。ご了承ください。

応用操作

好きな場面を選んでダビングする

撮影済みのビデオの中からお好きな場面を8場面まで選んで、ビデオデッキのテープに自動的にダビングします。編集する場面と場面の間に場面切替効果を挿入したり、演出効果を使って映像そのものに変化をつけることもできます。

1 リモコンを使ってビデオを再生し
自動編集の入/切ボタンを押す
- 液晶画面に自動編集表示画面が表示されます。

2 ムービーの液晶画面やテレビに編集開始場面を表示させ
リモコンのここから/ここまでボタンを押す
- ムービーの液晶画面やテレビに編集開始場面のタイムコードが表示されます。

●場面の撮り始めに変化を付けたいときは（☞56ページ）
リモコンの場面切替ボタンを押します。ボタンを押すたびに液晶画面やテレビに表示される場面切替アイコンが変わります。利用したい場面切替アイコンが表示されるまでボタンを押してください。ただし、自動編集する最初の場面では映像が記録されていないため、「最後の映像によるコーナーワイプ」などを使用することはできません。

3 ムービーの液晶画面やテレビに編集終了場面の映像を表示させ
リモコンのここから/ここまでボタンを押す

●ムービーの液晶画面やテレビに編集終了場面のタイムコードが表示されます。

●**場面の録り終わりに変化を付けたいときは（☞ 56ページ）**
リモコンの場面切替ボタンを押します。ボタンを押すたびに液晶画面やテレビに表示される場面切替アイコンが変わります。利用したい場面切替アイコンが表示されるまでボタンをくり返し押してください。録り終わりの場面切替効果を決めると、次の編集開始映像が自動的に録り終わりの場面切替効果で始まります。ただし、自動編集する最後の場面では「最後の映像によるコーナーワイプ」などを使用することはできません。また、場面の録り終わりで場面切替効果を使用すると、編集終了時点からフェードアウトやワイプアウトを行うため、その時間がビデオの編集時間に加算されます。ただし、デジタルダビングでは変化を付けることはできません。

●**映像そのものに変化を付けたいときは（☞ 62ページ）**
リモコンの演出効果ボタンを押します。ボタンを押すたびに液晶画面やテレビに表示される演出効果アイコンが変わります。ただし、デジタルダビングでは変化を付けることはできません。

手順2、3を繰り返して自動編集したい場面を登録する

●場面の始めに場面切替を設定したときは、設定した効果のアイコンがカウンターの左側に表示されます。場面の終わりに場面切替を設定したときは、設定した効果のアイコンがカウンターの右側に表示されます。場面に演出効果を設定したときは、設定した効果のアイコンが「効果」に表示されます。何も設定していないときは「切」が表示されます。

応用操作

好きな場面を選んでダビングする（つづき）

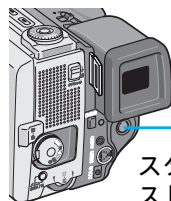
5 最初に登録した場面1の付近までビデオを巻き戻し、ビデオを一時停止さる

- リモコンやムービーの「巻戻しボタン」でビデオを巻き戻し、「一時停止ボタン」を押します。

6 ビデオデッキのリモコン受光部に向けて **リモコンのビデオ準備ボタンを押す**

- ビデオデッキが録画一時停止になります。一時停止にならないときは、手動でビデオデッキを操作して録画一時停止にしてください。

7 ムービーのスタート/ストップボタンを押す

- 自動編集が始まり、指定した場面を最後まで自動的にダビングします。ダビングが終了するとムービーが一時停止し、ビデオデッキは録画一時停止状態になります。

リモコンのスタート／ストップボタンでは始まりません。

8 ムービーとビデオデッキを停止させ、編集を終了する

- **画面に表示されるメッセージを消して自動編集したいときは**
  テレビの画面に表示されるメッセージは、自動編集でもそのまま記録されます。メッセージを消してから自動編集してください。
  「音声モード表示」を消す ➡ リモコンの画面表示ボタンを押す。
  「日時表示」や「タイムコード表示」を消す ➡ 「日時表示」、または「タイムコード」を「切」に設定する。
  （自動編集表示は自動編集をスタートすると消え、ビデオには記録されません）。
- **編集したい場面を早く探したいときは** ➡ ☞ 43ページ
- **各場面のタイムコードとタイムコードの合計時間は**
  編集開始場面と終了場面のタイムコードには1秒以下の数値（フレーム）が表示されないため、各場面のタイムコードの時間と合計時間が合わないことがあります。
- **自動編集の登録場面を修正したいときは**
  リモコンの「修正ボタン」を押します。ボタンを押すたびに最後から登録場面が消去されます。

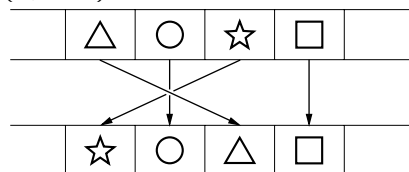
●**ダビング中のリモコンの位置は**
ビデオデッキのリモコン受光部に向けてください。障害物があるとうまくダビングできません。

●**こんなときは自動編集できません**
・同じタイムコード（☞36ページ）が2つ以上存在するビデオでタイムコードを指定しても、どのタイムコードかわからないため誤動作することがあります。
・編集終了場面のタイムコードの値が編集開始場面の値より小さいときは自動編集できません。
・編集終了場面と開始場面までの早送り時間がビデオデッキの一時停止可能時間（当社の場合約5分以内）を超えるときは、自動編集できません
・リモコンのプログラム編集入/切ボタンを押して「切」にしたときは、自動編集に登録した内容すべてが消えてしまいます。
・編集開始場面や終了場面の前後に無記録部分があるときは、ブルーバック（青い画面）を記録してしまうことがあります。
・自動編集中にムービーを操作すると、ビデオデッキが録画一時停止状態になり、自動編集を中止します。

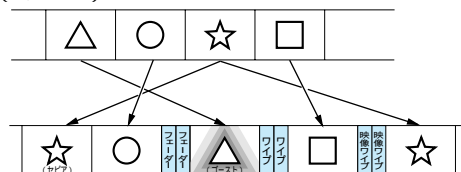
●**編集終了場面を決めずにダビングしたときは**
ビデオの最後まで自動的にダビングします。

知っておきたい自動編集のしくみ

普通に自動編集したときは

撮影済みのビデオの中から最大8つまでの場面を指定して、お好きな順番に並べ替えてダビングすることができます。普通に自動編集すると、ビデオは次のようにダビングされます。

場面切替や演出効果を入れて自動編集したときは

自動編集するビデオの最初と終わりに場面切替を入れたり、映像そのものに演出効果を付けてダビングすることができます。場面切替や演出効果を入れて自動編集すると、ビデオは次のようにダビングされます。

応用操作

より正確に自動編集する（シンクロ補正）

ビデオデッキには反応の早いものと遅いものがあります。自動編集（☞80ページ）でムービーとビデオデッキを同時にスタートさせてもそれぞれ動き出すタイミングが異なるため、余計な場面をダビングしてしまったり、必要な場面をダビングできなかったりすることがあります。そんなときはムービー側でビデオデッキの録画タイミングの誤差を補正してから再度自動編集を行ってください。シンクロ補正は、ムービー、および別売のリモコンとご家庭のビデオデッキを接続して行います。

録画タイミングのズレを確認する

任意の場面を自動編集してみて、ムービーのビデオ再生開始タイミングとビデオデッキの録画開始タイミングのズレを確認します。

1 適当な場面を1場面だけ自動編集する

●録画タイミングのズレを確認するだけなので、自動編集の指定は1場面だけでかまいません。自動編集する場面は、録画タイミングのズレがわかりやすいように場面が切り替わっている場面を指定してください。

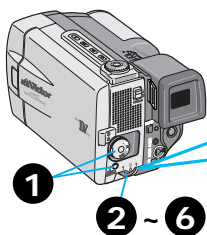
2 ダビングしたビデオを巻き戻し、再生する

●指定した編集開始場面よりも前の場面が録画されているときは、ムービーのビデオ再生開始場面よりも先にビデオデッキが録画を開始しています。また、指定した編集開始場面よりも後の場面から録画されているときは、ムービーのビデオ再生開始時点よりも後にビデオデッキが録画を開始しています。このようなときは録画タイミングのズレを調節する必要があります。

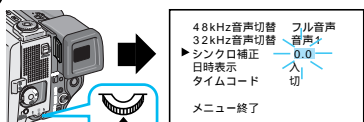
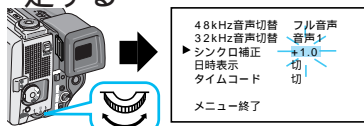
●**自動編集を行う前に**
数回自動編集のテストを行って補正値が適切であることを確認してから、最終的な自動編集を行ってください。

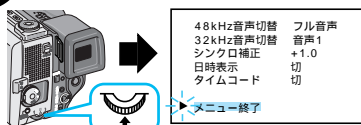
●**補正しても録画タイミングが合わないときは**
ビデオデッキによっては、録画タイミングのズレを補正しきれないことがあります。ご了承ください。

録画タイミングのズレを補正する

「録画タイミングのズレを確認する」（☞86ページ）でムービーのビデオ再生開始タイミングとビデオデッキの録画開始タイミングのズレがあったときは、録画タイミングのズレを補正します。

1 電源ダイヤル 再生 で、メニューボタンを押す

2 選択ダイヤルで「シンクロ補正」に合わせる

3 選択ダイヤルを押す

4 選択ダイヤルで「シンクロ補正」の数値を設定する

－1.3～＋1.3秒まで、0.1秒単位で補正値を設定することができます。ムービーのビデオ再生開始場面よりも先にビデオデッキが録画を開始しているときは、マイナス（－）の値を設定します。ムービーのビデオ再生開始場面よりも後にビデオデッキが録画を開始しているときは、プラス（+）の値を設定します。選択ダイヤルを右に回すと数値が大きくなります。左に回すと数値が小さくなります。ここでは「+1.0」を設定します。

5 選択ダイヤルを押す

6 選択ダイヤルを押す

●メニューを終了し、通常の画面に戻ります。

設定を変える

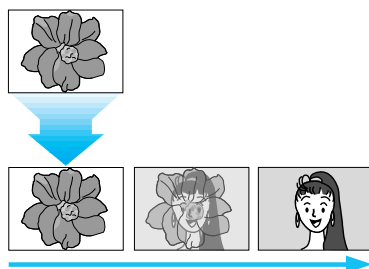
システム設定メニューについて

ここでは、電源ダイヤルでⓂ、【5S】、（セルフタイマー）を選択しているときにメニューボタンを押して、ムービーのシステム設定を変更する方法を説明します

メニュー名	概　　要	設定内容
シーン	・「5S」：スタート/ストップボタンを押すと、自動的に約5秒間撮影します。 ・「5SD」：5秒撮り撮影の後、5分以内に再び5秒撮り撮影を行うと、前の映像の最後（静止画）に約2秒間映像を重ねて撮影してから（オーバーラップ撮影）5秒撮り撮影を行います。 ・「アニメ」：スタート/ストップボタンを押すと約1/8秒間撮影を行います。これを繰り返すことで、アニメーションのような映像を撮ることができます。	**5S**/5SD/アニメ
ブザー／タリー	・「入」：ムービーの動作確認音、記念写真の「カシャッ」という効果音、撮影中ランプ（タリーランプ）の点灯がオンになります。 ・「切」：オフになります。ただし、記念写真の「カシャッ」音は、テープに録音されます。	**入**／切
ボイス ポジション	・「オート」：風による雑音など軽減して録音します。画面に が表示されます。 ・「切」：自然のままの音を録音します。	**切**／オート
音声モード	・「32kHz」：後でアフレコ編集することができます。 ・「48kHz」：アフレコ編集できません。	**32kHz**/48kHz
IDナンバー	・ 別売のJLIPプレーヤーパックなどを使ってパソコンやJLIP対応のAV機器からムービーを操作するときに必要なIDナンバーを設定することができます。 「01」～「99」まで設定できます。	01～99 (**06**)

＊最初に設定されている内容は、　　で示してあります。

●**シーン**

・連続5秒撮り撮影でオーバーラップ撮影したときは（5SD）次のように映像が記録されます。

・「録画モード」をLPでアニメ撮影したときは「LP」が点滅し、SPモードで記録されます。

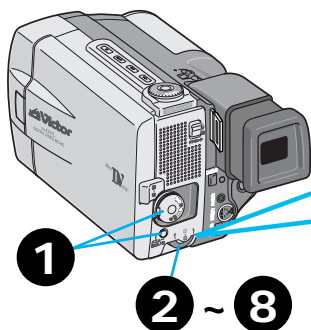
●**音声モード**

・ビデオと一緒に録音される音声は32kHzモード録音では2つのステレオ音声のうち、1つのステレオ音声に録音されます。残りのステレオ音声を使って後からアフレコ編集することができます。48kHzモード録音では1つのステレオ音声しかないため、後でアフレコ編集することはできません。

48kHzモードの場合		32kHzモードの場合			
左 L	右 R	左 L1	右 R1	左 L2	右 R2

■で印の付いているチャンネルに録音します。

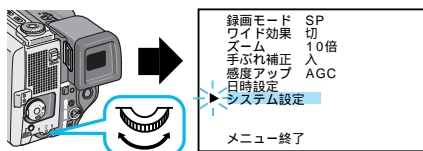
その他

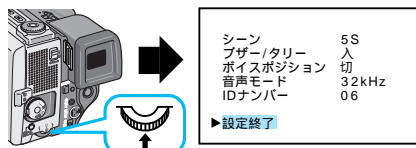
システム設定メニューの設定方法

ここでは、システム設定メニュー共通の設定方法を説明します。

例）シーンを変更する

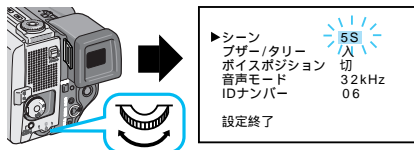
1 電源ダイヤルⓂで、メニューボタンをポンと押す

● 「5S」や セルフタイマーでも設定できます。

2 選択ダイヤルで「システム設定」に合わせる

3 選択ダイヤルを押す

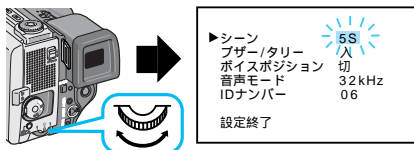
● 「システム設定」のサブメニューが表示されます。

❹ 選択ダイヤルで「シーン」に合わせる

●お好みの項目を選択します。

▶シーン　5S
ブザー/タリー　入
ボイスポジション　切
音声モード　32kHz
IDナンバー　06

設定終了

❺ 選択ダイヤルを押す

●カーソルの点滅が止まり、設定内容が点滅します。

▶シーン　5S
ブザー/タリー　入
ボイスポジション　切
音声モード　32kHz
IDナンバー　06

設定終了

❻ 選択ダイヤルで「5S」に合わせる

●選択ダイヤルを左右に押すたびに、設定可能な項目が点滅表示されます。ここでは「5S」を選択します。

❼ 選択ダイヤルを押す

●「5S」の点滅が消え、選択が確定します。カーソルは自動的に「設定終了」に移動します。

❽ 選択ダイヤルを2回押す

●メニューを終了し、通常の撮影画面に戻ります。

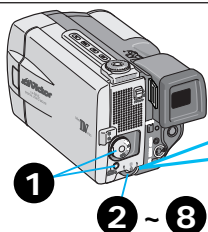
日時設定メニューについて

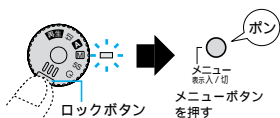
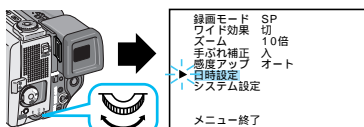
ここでは、電源ダイヤルで M 、【5S】、 ⏲（セルフタイマー）を選択しているときにメニューボタンを押して、ムービーの画面に表示されるメッセージの表示方法や日時を変更する方法を説明します。

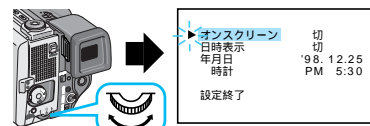
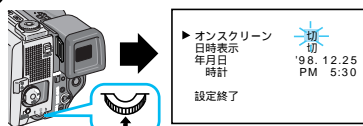
メニュー名	概　　要	設定内容
オンスクリーン	・「入」:メッセージがテレビに表示されます。 ・「切」:メッセージがテレビに表示されません。	**切** /入
日時表示	・「入」:ビデオの再生中にムービーの液晶画面やテレビに日時が表示されます。 ・「切」:日時が表示されません。	**入** /切
年月日 時計	・選択ダイヤルを押すと「年月日」「時計」の「年」が点滅します。選択ダイヤルを上下に動かして「年」を合わせます。選択ダイヤルを上に動かすと数値が大きくなります。下に動かすと小さくなります。数値を表示させて選択ダイヤルを押し、「月」「日」「時」「分」の順で合わせます。 ・年は西暦の下２ケタで合わせます。 ・時計は12時間表示方法です （AMは午前、PMは午後） ・AM12：00 夜中　・PM12：00 正午	現在の年月日と現在の時刻が表示されています。

* 最初に設定されている内容は、　　で示してあります。

日時設定メニューの設定方法

ここでは、日時設定メニュー共通の設定方法を説明します。

1 電源ダイヤル M で、メニューボタンをポンと押す

● 「5S」や セルフタイマーでも設定できます。

2 選択ダイヤルで「日時設定」に合わせる

3 選択ダイヤルを押す

4 選択ダイヤルで「オンスクリーン」（選択したい内容に）に合わせる

5 選択ダイヤルを押す

6 選択ダイヤルで「切」に合わせる

●選択ダイヤルを左右に押すたびに、設定可能な項目が点滅表示されます。ここでは「切」を選択します。

7 選択ダイヤルを押す

● 「切」の点滅が消え、選択が確定します。カーソルは自動的に「設定終了」に移動します。

8 選択ダイヤルを2回押す

●メニューを終了し、通常の撮影画面に戻ります。

ご注意

● **「日時を設定してください！」が表示されたときは、時計用電池（内蔵）がなくなっています。ムービーにバッテリーやACアダプターなどの電源を24時間以上接続してください。時計用電池が充電されます。**

撮影機能の設定メニューについて

ここでは、電源ダイヤルで M 、【5S】、 ⏲（セルフタイマー）を選択しているときに、メニューボタンを押してより効果的な撮影を行う方法を説明します。

メニュー名	概　　要	設定内容
録画モード	撮影する際のテープの送り速度を変えることができます。「LP」は「SP」に比べてテープの速度が遅くなるため、撮影時間は「SP」の1.5倍です。「SP」で撮影すると、あとで「アフレコ編集」「インサート編集」をすることができます。	**SP** /LP
ワイド効果	「ワイド」を選択すると、ワイドテレビにピッタリの横長の画面を撮ることができます。「シネマ」を選択すると、映画のように画面の上下に黒い帯が入った映像を撮ることができます。	**切** /ワイド/シネマ
ズーム	ズームできる最大倍率を、10倍、40倍、200倍から選択することができます。	10倍/ **40倍** /200倍
手ぶれ補正	撮影中に生じる小さな揺れを自動的に補正することができます。設定が「入」になっているときは、画面に「手ぶれ」と表示されます。	**入** /切
感度アップ	ムービーは暗いところでも画面が明るくなるように撮影します。この機能を「切」に設定することで、見ている明るさそのままをビデオに撮ることができます。	**AGC** /切

* 最初に設定されている内容は ＿＿ で示してあります。

各メニューの補足説明

●録画モード

・本機の「LP」モードで撮影したテープは本機で再生することをおすすめします。他社のデジタルビデオではうまく再生できない場合があります。

●ワイド効果

・普通のテレビ（画面比率4:3）やファインダー、液晶画面で見るときは
ワイド映像は、撮影時、再生時ともに縦長の映像が映ります。シネマ映像は、撮影時、再生時ともに上下に黒い帯が入った映像が映ります。

・ワイドテレビで再生するときは
ワイドで撮った映像には、ワイド用の識別信号が記録されています。S2端子をS映像コードでワイドテレビに接続してください。S2端子に接続すれば、ワイド、シネマをテレビが自動判別します。S1端子に接続すると、ワイドを自動判別します。テレビ側にS2またはS1端子がないときは、S端子に接続してください。自動判別はできません（詳細はお使いのワイドテレビの取扱説明書を参照してください）。

・ビデオデッキでダビングしたワイド映像を再生するときは
ワイド映像になるようにテレビ側でモードを切り替えてください（詳細はお使いのワイドテレビの取扱説明書を参照してください）。

・ワイド映像とシネマ映像を混在させて撮ったときは
早送り再生中、巻戻し再生中は、ワイド映像とシネマ映像を判別できません。

●ズーム

・10倍以上のズーム（デジタルズーム）を使うときは
10倍まではレンズの機能で映像をズームしますが、10倍以上は映像をデジタル処理するため、多少映像品質が劣化します。（☞ 94ページ）

●手ぶれ補正

・デジタル処理するため、多少映像品質が劣化します。

・フルオートモードの手ぶれ補正は
「手ぶれ補正」を「切」に設定していても、自動的に「入」になります。

・三脚などでムービーを固定して撮影するときは
「手ぶれ補正」を「切」にしてください。「入」のままだと被写体の動きに合わせて必要のない補正を行い、不自然な映像になることがあります。

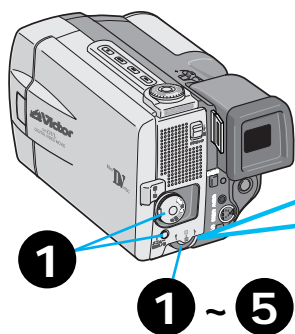
・手ぶれが大きいときやコントラスト（明暗差）のほとんどない被写体を撮るときは、補正できないことがあります。

・映像をデジタル処理する機能（場面切替、演出効果）と同時に使えません。

・手ぶれ補正が働かないときは、液晶画面の「手ぶれ」表示が点滅します。

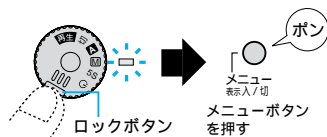
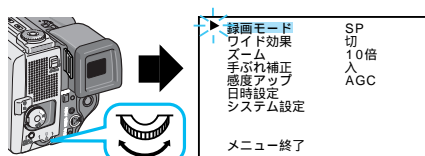
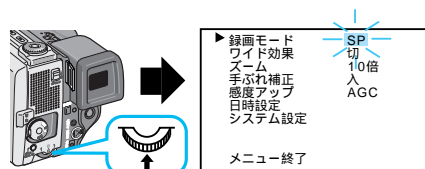
●感度アップ

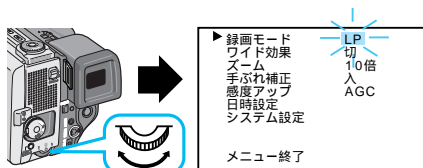
・「AGC」で撮影した画面は、デジタル映像を処理して実際よりも明るい映像を記録します。ただし、映像がザラザラした感じになります。

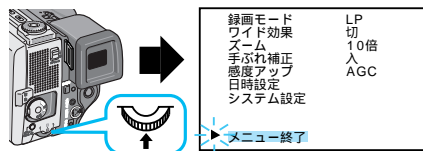
撮影機能の設定方法

ここでは、システム設定メニュー共通の設定方法を説明します。

例）録画モードを変更する

1 電源ダイヤルⓂで、メニューボタンをポンと押す

● 「5S」や セルフタイマーでも設定できます。

2 選択ダイヤルで「録画モード」に合わせる

3 選択ダイヤルを押す

4 選択ダイヤルで「LP」に合わせる

●お好みの録画モードを選択します。ここでは、例として「LP」を選択します。

5 選択ダイヤルを押す

●「LP」の点滅が消え、選択が確定します。カーソルは自動的に「メニュー終了」に移動します。

6 選択ダイヤルを押す

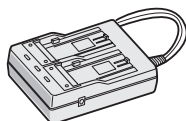
●メニューを終了し、通常の撮影画面に戻ります。

その他

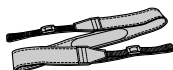
アクセサリー関連

アクセサリーキット（別売）

ムービーをご使用になるには、別売のアクセサリーキット（VU-V86KIT）をお買い求めください。

アクセサリーキット　VU-V86KIT

ACアダプター／チャージャー
AA-V80
（ACアダプター）

DCコード
長さ：約1.5m

バッテリーパック
BN-V814
（バッテリー）

ショルダーストラップ

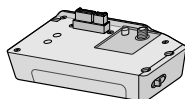
リモートコントロール
RM-V711（リモコン）

リモコン用ボタン電池
CR2025（動作確認用）

編集コード
長さ：約1.5m

自動編集用

映像/音声コード（3.5φ）
3.5φミニプラグ
▶ピンプラグ×3
長さ：約1.5m
ムービーとテレビ、
またはビデオ接続用

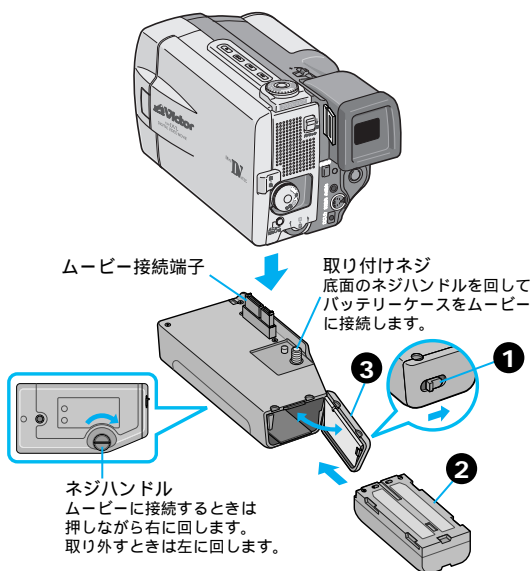
S映像コード
長さ：約1.5m
ムービーとS映像対応のテレビ、またはビデオ接続用

バッテリーケース

その他のアクセサリー：

DVケーブル	**VC-VDV204**
フィルムアダプター	**CU-V30**
スノー＆レインジャケット	**CB-V99**
レンズアダプター	**GL-V5842**
ワイドコンバージョンレンズ	**GL-V0642**
ソフトケース	**CB-V747**

●別売アクセサリーキットの取扱説明書も合わせてご覧ください。

バッテリーケース（別売）

アクセサリーキットVU-V86KITに含まれています。
バッテリーケースにバッテリーを1個セットして、本体のバッテリーと同時に使用できます。
長時間撮影に便利です。

充電したバッテリーの入れかた

1 **バッテリー取り出しスイッチを押す**

●バッテリーカバーが開きます。

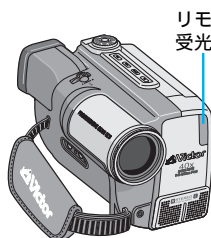
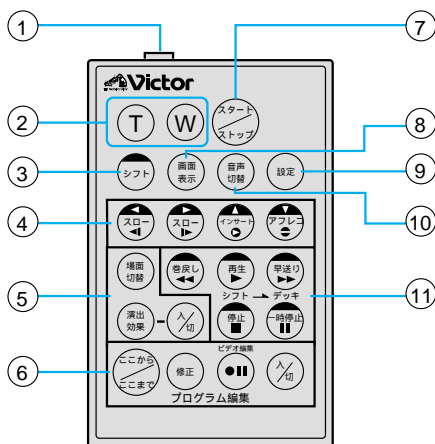
2 **充電済バッテリーを⊕、⊖が上になるように入れる**

3 **バッテリーカバーを閉める**

●ムービーに接続するときは、ネジハンドルを押しながら右に回します。
取り外すときは左に回します。

その他

リモコン（別売）

別売のアクセサリーキットにあるリモコンを使って、テープの再生中や編集中に、ムービーをリモートコントロールすることができます。ムービーのリモコン受光部に向けて使用します。

リモコンの操作方法

操作範囲は屋内で約5mです。
ムービーのリモコン受光部に向けて操作してください。角度によっては操作できない場合があります。
また、ムービーのリモコン受光部に直射日光や照明の強い光が当たるとムービーが誤動作したり、動作しないことがあります。

リモコン電池の入れかた

	ボタン名	ボタンの機能	参照ページ
①	リモートポーズ（入力）端子	編集コード（☞98ページ）でムービーを接続します。	82
②	【T】ズームボタン 【W】ズームボタン	【T】を押すと映像が大きくなります。 【W】を押すと映像が小さくなります。	37,72
③	シフトボタン	拡大した再生映像を上下左右に動かすときに、押します。また　ビデオデッキを操作するときに押します。	72, 80
④	スロー（逆転）ボタン/左ボタン	テープをスローで巻き戻し再生します。 また、再生ズームした映像を左に動かします。	43, 72
	スロー（正転）ボタン/右ボタン	テープをスローで再生します。 また、再生ズームした映像を右に動かします。	43, 72
	インサートボタン/上ボタン	ビデオのインサート編集を行います。 また、再生ズームした映像を上に動かします。	72, 78
	アフレコボタン/下ボタン	ビデオのアフレコ編集を行います。 また、再生ズームした映像を下に動かします。	72, 76
⑤	場面切替ボタン	ビデオの自動編集中に使用したい場面切替効果を選択します。	56, 83
	演出効果ボタン	ビデオの再生中や自動編集中に使用したい演出選択をします。	73
	演出効果 入/切ボタン	ビデオ再生映像に演出効果するときに押します。	73
⑥	ここから/ここまでボタン	自動編集の開始と終了を指定するときに使用します。	82
	修正ボタン	自動編集を修正するときに使用します。	84
	ビデオ準備ボタン	自動編集でビデオを録画停止にします。	84
	入/切ボタン	自動編集をするときに押します。	82
⑦	スタート/ストップボタン	撮影のスタート/ストップを行います。	79
⑧	画面表示ボタン	テレビに出てくるメッセージを出したり、消したりします。	
⑨	設定ボタン	編集に使用するビデオデッキのメーカーを設定します。	80
⑩	音声切り替えボタン	再生時の音声を切り替えます。	69
⑪	巻戻しボタン	巻き戻すときに押します。	−
	再生ボタン	再生するときに押します。	−
	早送りボタン	早送りするときに押します。	−
	停止ボタン	停止するときに押します。	−
	一時停止ボタン	一時停止するときに押します。	−

故障かな？と思ったら

このムービーはマイコンを使用しています。
雑音や妨害ノイズにより正常に動作しないことがあります。そんなときはムービーから電源（バッテリー、ACアダプターなど）を外し、リセットボタン（☞22ページ）を押したあと、あらためてご使用ください。
それでも不具合があり、以下の処置をしても改善されない場合は、お買い上げ販売店、またはビクターサービス窓口にご相談ください。

	こんなとき	ご確認ください	参照ページ
電源	電源が入らない	● 電源は正しく接続されていますか？ ● バッテリーは充電されていますか？ ● 液晶画面を開いていますか？　またはファインダーを引き出していますか（撮影時）？	19 18 29
	「日時を設定して下さい！」が表示される	● 内蔵の時計用電池がなくなっています。ACアダプターなどの電源を24時間以上接続してください。	19
撮影中	撮影できない	● テープの誤消去防止用つまみが「SAVE」側になっていませんか？ ● 「テープオワリ」になってませんか？ ● 電源ダイヤルが 再生 になっていませんか？ ● カセットカバーが開いていませんか？	111 105 30 21
	映像が出ない	● 電源をもう一度入れ直してみてください	29
	メニューボタンの機能が使えない	● 電源ダイヤルが A になっていませんか？	30
	選択ダイヤルの機能が使えない	● 電源ダイヤルが A 【5S】 ⏲（セルフタイマー）になっていませんか？	30
	自動でピントが合わない	● 「フォーカス」が「手動」になっていませんか？ ● 暗いところや明暗差のないものを撮影していませんか？ ● レンズにゴミや水滴などが付いていませんか？	48 49 113
	撮影中、液晶画面に日時が出ない	● 「日時表示」を「切」にしていませんか？ ● 対面撮影していませんか？ ● 画面表示入/切ボタンを約1秒以上押してみてください。	70 35 23
	5秒撮影で5秒以内に撮影が終わってしまう	● 「シーン」で「アニメ」を選んでいませんか？	88
	記念写真撮影ができない ズームできない	● 「ワイド効果」で「ワイド」を選択しているときは、記念写真撮影できません。	94
	撮影したビデオの縦に明るい線が出る	● 強い光の当たる被写体を撮影しませんでしたか？　被写体に強い光が当たると、コントラストの違いで線が出ることがあります。故障ではありません。	—
	太陽光が映ると、画面が一瞬赤くなったり、黒くなったりする	● 故障ではありません。	—

	こんなとき	ご確認ください	参照ページ
撮影中	**デジタルズームできない**	●「ズーム」が「10倍」に設定されているときは10倍ズームまでしかできません。 ●「演出効果」で「ゴースト」を選択しているときは、ズームは10倍ズームまでしか使えません。 ●「場面切替」で最後の映像ワイプ効果や「オーバーラップ」を選択しているときはズームは使えません。 ●「シーン」で「5SD」を選択し、電源ダイヤル【5S】（5秒撮り撮影モード）で撮影しているときは、ズームは10倍ズームまでしか使えません。 ●ズーム中に連続5秒撮り撮影でオーバーラップ撮影すると、デジタルズームは解除されます。	94 63 57 88 57
	「演出効果」や「場面切替」機能が使えない	●電源ダイヤルが A 、または【5S】になっていませんか？	30
	「場面切替」の最後の映像（静止画）での切替が使えない	●最後の場面を記憶している状態になっていますか？。 ●最後の場面を撮影した状態で、電源ダイヤルを「切」にしませんでしたか？ ●電源が切れていませんか（撮影一時停止を5分以上続けると、自動的に電源が切れます）？	57 30 33
	「場面切替」の「オーバーラップ」が使えない	●最後の場面を記憶した状態で「演出効果」を設定、変更しませんでしたか？ ●「演出効果」の「セピア」や「ブラック/ホワイト」「高感度」を選択していませんか？ ●「ワイド効果」で「ワイド」を選択していませんか？　選択しているときは使えません。	62 62 94
	「画面切替」の最後の映像（静止画）でのワイプ効果が使えない	●「演出効果」の「高感度」を選択していませんか？ ●「ワイド効果」で「ワイド」や「シネマ」を選択していませんか？	63 94
	「場面切替」の「フェーダー：白黒」が使えない	●「演出効果」の「セピア」や「ブラック/ホワイト」を選択していませんか？	63
	「演出効果」の「ゴースト」が使えない	●「ワイド効果」で「ワイド」を選択していませんか？ ●「場面切替」の最後の映像（静止画）でのワイプ効果や「オーバーラップ」で撮影していませんか？ ●連続5秒撮り撮影でオーバーラップ撮影（P74）していませんか？ ●「場面切替」のフェーダー効果を使ってフェードイン、フェードアウトしていませんか？	94 56 38 56
	「演出効果」の「映画効果」や「ストロボ」を選択してもコマ落とし効果が使えない	●「場面切替」の最後の映像（静止画）でのワイプ効果や「オーバーラップ」で撮影していませんか？ ●連続5秒撮り撮影でオーバーラップ撮影していませんか？	56 89
	「白バランス」が設定できない	●「演出効果」の「セピア」や「ブラック/ホワイト」を選択していませんか？	63
	液晶画面の映像が暗い、または白くなる	●液晶画面の角度や明るさを調節してください。 ●寒い場所でビデオを再生していませんか？　寒い場所では、多少液晶画面が暗く見えます。故障ではありません。 ●液晶画面の寿命が短くなっている可能性があります。お買い上げの販売店、またはお近くのビクターサービス窓口にご相談ください。	29 — —

故障かな？と思ったら（つづき）

	こんなとき	ご確認ください	参照ページ
撮影中	液晶画面の裏側が熱くなる	● 液晶画面を長時間使用していませんか？　長時間使用すると、液晶画面裏の蛍光管が温かくなります。液晶画面を切るか電源を切ってしばらく放置しておくと元に戻ります。	—
	液晶画面に表示ムラが出る	● 液晶画面やそのまわりを押しませんでしたか？　液晶画面を圧迫すると映像ムラが生じます。手を離してしばらく放置しておくと元に戻ります。	—
	液晶画面のアイコン表示が点滅する	●「場面切替」「演出効果」「手ぶれ補正」機能のうち、同時に使用できない機能を選択しているときは各機能のアイコンが点滅します。	56,62,94
	液晶画面にメッセージなどの表示が出ない	●「オンスクリーン」を「切」にしていませんか？ ● 画面表示入/切ボタンを約1秒以上押してみてください。	92 23
	撮影中に音声が聞こえない	● ヘッドホン端子の音量は、再生状態で調節してください。	43
再生中	液晶画面の映像が乱れる	● テープの無記録部分の再生、高速再生、および静止画再生中は液晶画面の映像が乱れることがあります。故障ではありません。	—
	再生、巻戻し、早送りができない	● 電源ダイヤルが A M【5S】（セルフタイマー）になっていませんか？	30
	テープは回っているが再生されない	● カセットカバーが開いていませんか？ ● テレビのチャンネルがビデオ用になっていますか？	22 45
その他	液晶画面に「E01」など、Eの付いた数字が表示される	● 拡大故障を防ぐため、ムービーが操作できなくなります。バッテリーなど電源を取り外し、数分待って表示が消えてからお使いください。2、3度くり返しても表示が消えないときはお買い上げの販売店、またはビクターサービス窓口にご相談ください。テープを傷める場合がありますので、テープを取り出さないでください。	105
	液晶画面に映像が表示されない	● ファインダーを引き出していませんか？ ● 液晶画面の明るさを調節してみてください。 ● 液晶画面を180˚回転しているときは、液晶画面を一度確実に開いてください。	29
	ACアダプターの充電ランプがつかない	● 低温（10℃以下）や高温（30℃以上）で充電していませんか？　10～30℃の環境で充電してください。周囲の温度が低すぎたり高すぎたりすると、バッテリー保護のため充電が中止されることがあります。	18
	テープが入らない	● テープの向きが間違っていませんか？ ● バッテリーの容量が少なくなっていませんか？	21 105
	プリンターで印刷したら画面の下に黒い線が出る	● 故障ではありません。 手振れ補正「入」で撮影すると、黒い線は出なくなります。	—
	持ち運び中にレンズシャッターが開くことがある	● 衝撃があると開くことがあります。 電源を入れ直すと元に戻ります。	—

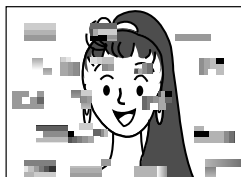
警告表示

表示	表示内容	参照
(バッテリー表示)	バッテリーの残量を表示します。 残量大 → 残量なし バッテリーが少なくなると (空) が点滅します。 バッテリーがなくなると自動的に電源が切れます。	—
(テープ表示)	テープが入っていないときや、テープの誤消去防止用ツマミが「SAVE」側にあるときに表示されます。	—
(ヘッド汚れ表示)	撮影中に、ヘッドにゴミが付いていると表示されます。	106
(つゆつき表示)	つゆつきが発生したときに表示されます。ムービーは自動的に停止します。	113
テープを入れて下さい！	テープが入っていないときに、電源を入れると約10秒間表示されます。	—
テープオワリ	録画や再生中に、テープが終わると表示されます。	—
日時を設定して下さい！	日時が設定されていないときに表示されます。	92
音声アフレコできません！	アフレコ編集できないときに表示されます。	76
インサート録画できません！	インサート録画できないときに表示されます。	78
E01〜07	ムービーに生じたトラブルを判断するための表示です。 E01〜07が表示されるとムービーは自動的に停止します。バッテリーなどの電源を外してリセットボタンを押してください。数分待ち、再び電源を入れてください。2、3度くり返しても表示が消えないときは、お買い上げ販売店か、ビクターサービス窓口にご相談ください。	24

日常のお手入れ

ヘッドの汚れを取る

ムービーを長時間使用していると、ヘッドに空気中のほこりやちりが付着します。また、傷のあるテープを使用したときにテープの磁性粉がはがれてヘッドに付着したりします。ヘッドが汚れると次のような症状が出ます。

・ 撮影中にヘッド目づまり表示 ⊗（☞ 105ページ）が出る
・ 再生しても音や映像が出ない（青い画面になる）
・ 再生すると、映像がモザイク画（ブロック状のノイズ）になる
・ 再生すると、映像に黒色やモザイク画の横しまが出る

このようなときは、別売のデジタルビデオヘッドクリーナー（M-DV2CL）テープをムービーで再生して、ヘッドを清掃してください。

M-DV2CLを長時間繰り返し再生すると、ヘッド摩耗の原因になりますのでご注意ください。（ムービーでM-DV2CLを再生すると、20秒後に自動的に再生を停止します）

詳しくはM-DV2CLの取扱説明書をご覧ください。

●M-DV2CLでクリーニングしても鮮明な映像が映らないときは
ヘッドが摩耗しています。お買い上げの販売店、またはビクターサービス窓口にご相談ください。

●定期点検を行ってください
ヘッドやテープを動かす機械部品は、お使いになる間に汚れたり、摩耗したりします。ムービーの性能を維持し、いつも美しい画面をご覧いただくために、およそ使用時間1000時間を目安に定期点検に出されることをおすすめします。定期点検は、お買い上げの販売店、またはビクターサービス窓口にご相談ください。

本体の汚れを取る

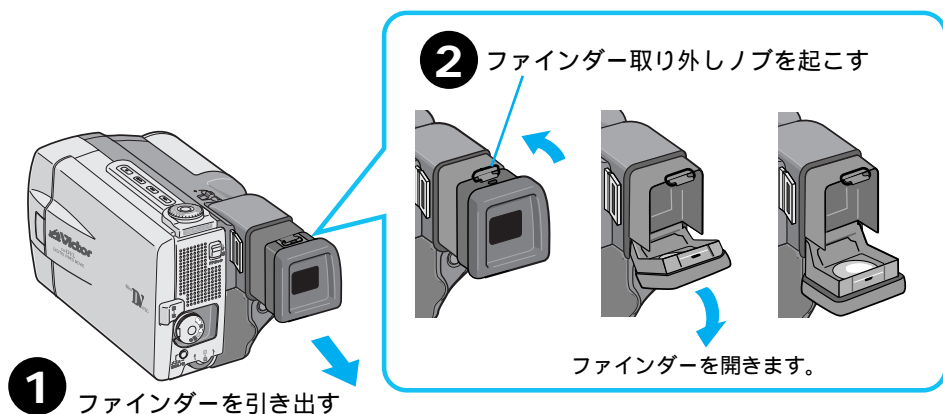
バッテリーやACアダプターを外して電源を切ってから、次のようにお手入れしてください。
- 汚れを乾いた柔らかい布などで拭き取ってください。
- ひどい汚れは水で薄めた中性洗剤に布を浸して固く絞ってから汚れを拭き、乾いた布で水分を拭き取ってください。

●ベンジンやシンナーは使用しないでください
ボディの損傷や故障の原因になります。
●化学ぞうきんや洗剤をご使用になるときはご使用になる製品の注意書きに従ってください。

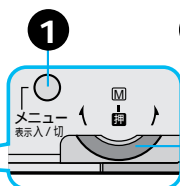
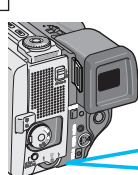
レンズや液晶画面の汚れを取る

市販のレンズブロワーでほこりを落とし、添付のクリーニングクロス、または市販のレンズクリーニングペーパー等で汚れを落としてください。汚れたまま放置しておくと、かびなどが発生することがあります。

ファインダー内部の汚れを取る

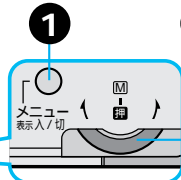
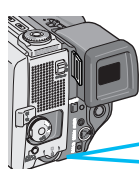
ファインダーの内部にゴミなどが入ったときは、細いドライバーなどでファインダー取り外しノブを起こし、レンズブロワーや乾いた柔らかい布などでゴミ、汚れを取ってください。
終わったらファインダーを確実に閉め、ノブを戻します。

メニュー一覧

メニューボタン表示

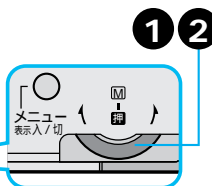
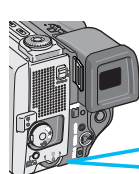
撮 影 側

❶ **メニューボタン**をポンと押して表示させます。
❷ **選択ダイヤル**を回して設定します。

メニュー名	サブメニュー名	選択項目	初期値
録画モード	なし	SP/LP　＊	SP
ワイド効果	なし	切/ワイド/シネマ	切
ズーム	なし	10倍/40倍/200倍	40倍
手ぶれ補正	なし	入/切	入
感度アップ	なし	AGC/切	AGC
日時設定	オンスクリーン	切/入　＊	切
	日時表示	切/入	入
	年月日　時計	現在の年月日、時刻を表示	出荷時に現在年月日、時刻を設定
システム設定	シーン	5S/5SD/アニメ	5S
	ブザー/タリー	入/切　＊	入
	ボイスポジション	切/オート	切
	音声モード	32 kHz/48 kHz　＊	32 kHz
	IDナンバー	01～99まで設定可能	06

＊：電源ダイヤルを **A** に戻しても設定内容を記憶している項目

再 生 側

❶ **メニューボタン**をポンと押して表示させます。
❷ **選択ダイヤル**を回して設定します。

メニュー名	選択項目	初期値
48kHz音声	フル音声/音声1/音声2	フル音声
32kHz音声	フル音声/音声1/音声2	音声1
シンクロ補正	-1.3～+1.3	0.0
日時表示	入/切	入
タイムコード	切/入	切

選択ダイヤル表示

❶ **選択ダイヤル**を押して表示させます。

❷ **選択ダイヤル**を回して設定します。

メニュー名	選択項目	初期値
フォーカス	オート/マニュアル ＊	オート
明るさ補正	オート/マニュアル ＊	オート
白バランス	オート/マニュアル （ ）	オート
場面切替	フェーダー：白、フェーダー：黒、フェーダー：白黒、ワイプ：コーナー、ワイプ：ウィンドウ、ワイプ：スライド、ワイプ：ドア、ワイプ：スクロール、ワイプ：シャッター、ランダム、オーバーラップ	切
演出効果	シャッター1/60、シャッター1/100、シャッター1/250、シャッター1/500、夜景、セピア、ブラック/ホワイト、映画効果、ストロボ、高感度、ゴースト	切

＊：電源ダイヤルを A にすると、「オート」に戻る項目

その他

使用上のご注意

ムービーについて

■本機はDV方式のデジタルビデオムービーです。

従来式のビデオ、およびDV方式以外のデジタルビデオとは互換性がありません

■電源（バッテリーやACアダプター、およびバッテリーケース）を外すときは、必ず電源が「切」になっていること確認してください。

・ムービーの動作中に電源を外すと、テープを傷めたり誤動作の原因になります。

■長時間使用しないときは電源ダイヤルを「切」にしてください。

・長時間電源を入れたままにしておくと、ムービーの表面が温かくなります。長時間使用しないときは電源を「切」にしてください。

■ムービーを保管するときはテープを出し、電源を切り、バッテリーをはずしてください。

・機能に支障をきたす場合がありますので、ときどき電源を入れて動作を点検してください。

液晶画面について

■液晶画面の表面を強く押したり強い衝撃を与えないでください。

・傷がついたり割れたりして故障の原因となることがあります。

■ファインダーや液晶画面に小さな光る点や黒い点が出ることがあります。

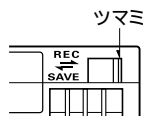
・ファインダーや液晶画面には99.99%以上の有効画素がありますが、0.01%以下の小さな光る点や黒い点が出ることがあります。これらはテープに記録されません。

カセットについて

■本機はDV方式のデジタルビデオムービーです。

Mini DV マークの付いたデジタルビデオカセットをご使用ください。

■大切な録画を消してしまわないように注意してください。

・保存しておきたい録画済みテープは、カセット背面にあるツマミを「SAVE」の矢印方向に引いてください（ツマミを「REC」の方向に引くと、再び録画できます）。

■事前に試し撮りをしてください。

・大切な録画をするときは、事前に試し撮りを行い、正常に録画、録音されていることをご確認ください。

■内容の補償についてはご容赦ください。

・万一、ムービーおよびカセット等の不具合により正常に録画、録音や再生ができなかった場合の内容の補償についてはご容赦ください。

■権利者に無断で使用できません。

・あなたがムービーで録画、録音したビデオは個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

■撮影を制限している場所があります。

・鑑賞や興業、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場所がありますのでご注意ください。

■モザイク状のノイズが出る場合があります。

・LPモードで録画されたカセットは、他のLPモードのついたデジタルビデオで再生した場合、モザイク状のノイズが出る場合があります。また、LPモードのないデジタルビデオでは正常に再生できません。

■カセットは湿気が少なく風通しのよい、カビの発生しない場所に保存してください。

バッテリーについて

■リチウムイオンバッテリーの特性

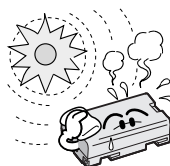
・リチウムイオンバッテリーは小型で高容量のバッテリーです。しかし、冬場の屋外などの低温（10℃以下）でバッテリーが冷えている場合、バッテリーの使用時間が短くなる特性があり、動作しないことがあります。このような時は、バッテリーをポケットに入れるなどして温かくし、撮影前にムービーに取り付けてください。バッテリー自体が冷えていなければ、ムービーの動作上問題ありません（カイロなどをご使用になっている場合は、直接カイロがバッテリーに触れないようにご注意ください）。
または、別売のVU-V86KITに付属のバッテリーケースのご使用をおすすめします。

■リチウムイオンバッテリーの保存

・充電された状態で長期間保存すると特性が劣化することがあります。
・しばらく使わない場合は、使い切った状態で保存してください。

<残りの容量を使い切るには>

①テープを入れずに電源を入れる。
②ムービーの電源が自動的に切れたらバッテリーを取り出す

・長期間保存する場合は、年に一回程度充電した後、使い切ってから保存してください。
・使用しないときは必ずバッテリーをムービーやACアダプターから取り外してください。
・付けたままにしておくと、電源が切れていても微少電流が流れていますので、過放電になり使用できなくなる恐れがあります。
・涼しい所で保存してください。
・周囲の温度が15℃〜25℃くらいの乾燥した所をおすすめします。
・暑い所や極端に寒い所は避けてください。

時計用電池について

・日時を記憶するために充電式の電池が内蔵されています。ムービーに、バッテリーやACアダプターなどの電源を接続すると常に充電されますが、使わずに保管していると約3カ月で放電され、日時が消えてしまいます。このようなときは、24時間以上ACアダプターなどの電源を接続してください。電源の入/切に関係なく電池が充電されますので、日時を合わせてムービーをお使いください。日時の合わせ方については、92ページをご覧ください（日時を合わせなくても、ムービーで撮影をすることはできます）。

つゆつきについて

よく冷えたビールをコップに注ぐと、コップのまわりに徐々に水滴が付着します。この状態を「つゆつき」と言います。ムービーでつゆつきが発生すると、心臓部のヘッドドラムのまわりに水滴が付着し、テープが貼り付いてしまいます。

■つゆつきはこんなときに起こります

・ムービーを寒いところから急に暖かいところに移動したとき
・湿気の多い場所でムービーを使用しているとき
・暖房した直後の部屋や、エアコンなどの冷風がムービーに直接当たるとき

■つゆつきが発生すると

・液晶画面に が表示され、ムービーが停止します。カセットの出し入れもできません。
・通常、つゆつきは徐々に発生するため、10～15分間は などが表示されないことがあります。 が出る前でもレンズや保護ガラスに水滴が付いているときはヘッドドラムにも水滴が付着している可能性がありますので、カセットカバーを開けないでください。
・つゆつきはレンズにも発生します。レンズに水滴が付着しているときれいに撮影できませんので、つゆつきがなくなってから撮影してください。

■つゆつき後再び使い始めるときは

・電源を切って1時間以上待ちます。その後、電源を入れて数分待ち、 が消えてからご使用ください。 が消えないときは点検が必要です。お買い上げの販売店にご相談ください。
・寒冷地帯では露が凍結し、霜になることがあります。寒冷地帯では が消えるまでに、さらに時間がかかることがあります。

■つゆつきのトラブルを防ぐには

・寒いところから暖かいところ、冷風の効いたところから温度、湿度の高い場所に移動したときは、ムービーとテープをしばらく放置して、使用する環境になじませてからご使用ください。
・例えばスキー場で撮影後、暖房の効いた部屋に入るときは、ビニール袋等に空気といっしょにムービーを入れ、しばらくその状態で部屋になじませてからご使用ください。

海外でお使いになるときは

別売のACアダプターは海外でも使用可能です。バッテリーを充電したりコンセントから直接電源を確保できます。ただし、コンセントの形状は国によって異なります。訪問国のコンセントに合った変換プラグをご用意ください。詳細は旅行代理店、またはビクターサービス窓口にご相談ください。

コンセントの形状と使用する変換プラグ

現地のテレビで再生する

NTSC方式の映像、音声入力端子付きテレビが必要です。NTSC方式を採用している国は以下の通りです。

- ●アメリカ合衆国
- ●プエルトリコ
- ●バルバドス
- ●キューバ
- ●ボリビア
- ●ホンジュラス
- ●ドミニカ
- ●トリニダード・ドバゴ
- ●バミューダ
- ●バハマ
- ●カナダ
- ●米領サモア
- ●フィリピン
- ●チリ
- ●コロンビア
- ●台湾
- ●パナマ
- ●エルサルバドル
- ●ペルー
- ●ベトナム
- ●韓国
- ●コスタリカ
- ●メキシコ
- ●ニカラグア
- ●エクアドル
- ●ベネズエラ
- ●ミャンマー
- ●グアム
- ●グァテマラ
- ●ミクロネシア
- ●スリナム
- ●ハイチ

●再生できるテープは
日本と同じNTSC方式で撮影したミニDVテープが再生できます。

●ムービーが海外で故障したときは
日本にお持ち帰りになった後、お買い上げ販売店にご相談ください。海外でのアフターサービスは行っておりませんので、ご了承ください。

保証とアフターサービス

保証書（別途添付しています）

保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめのうえ、販売店からの受取っていただき内容をよくお読みの後大切に保管してください。保証期間は、お買い上げ日から１年間です。

補修用性能部品の最低保有期間

当社は、デジタルビデオムービーの補修用性能部品を、製造打ち切り後、最低８年間保有しています。この期間は通商産業省の指導によるものです。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

ご不明な点や修理に関するご相談は

お買い上げの販売店または最寄りの「ビクターサービス窓口」にお問い合わせください。

修理を依頼される場合（持込修理）

102 ～105ページに従って調べていただき、なお異常のあるときは、電源を切り、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店にご連絡ください。
万一本機およびデジタルビデオカセットなどの不具合により、正常に録画・録音や再生できなかった場合の内容の補償については、ご容赦ください。

ご連絡していただきたい内容

品名	デジタルビデオムービー
型名	GR-DVL
お買い上げ日	年　月　日
故障の状況	できるだけ具体的に
ご住所	
お名前	
電話番号	（　　）　－

保証期間中は

修理に際しましては保証書をご提示ください。保証書の規定に従って販売店に修理させていただきます。

保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる場合には、ご希望により修理させていただきます。

愛情点検

●長年ご使用のムービーの点検をぜひ！

熱、湿気、ホコリなどの影響や、使用の度合により部品が劣化し、故障したり、時には安全性を損なって事故につながることもあります。

このような症状はありませんか	●再生しても映像や音声が出ない。 ●異常な臭いや音がする。 ●水や異物が入った。 ●その他の異常や故障がある。

➡

ご使用を中止	故障や事故防止のため、電源を切り、必ず販売店に点検をご相談ください。

サービス窓口案内

ビクター製品のアフターサービスはお買上げの販売店へご用命ください

ご贈答品等で保証書記載のお買い上げ販売店にアフターサービスをご依頼になれない場合は、機種名をご確認の上、最寄りの「ご相談窓口」にご相談ください。

●修理についてのご相談窓口

ビクターサービスエンジニアリング株式会社

●略号について　S.C.はサービスセンターの略称です。
S.S.はサービスステーションの略称です。

都府県名	拠点名	TEL	〒	所在地
北海道				
北海道	札　幌 S.C.	(011) 898-1180	004	札幌市厚別区厚別東5条1丁目2-29
	苫小牧 S.S.	(0144) 34-6682	053	苫小牧市緑町2-7-11
	室　蘭 S.S.	(0143) 44-8168	050	室蘭市宮の森町3丁目13-13
	旭　川 S.C.	(0166) 61-3659	070	旭川市神居二条3-2-15
	北　見 S.S.	(0157) 25-8557	090	北見市山下町4-7-19
	釧　路 S.C.	(0154) 24-0797	085	釧路市若竹町6-13
	帯　広 S.S.	(0155) 24-4493	080	帯広市東六条南12-11
	函　館 S.S.	(0138) 46-5324	041	函館市美原3-16-25
東北				
青森	青　森 S.C.	(0177) 23-2261	030	青森市桂木4-6-17
	八　戸 S.S.	(0178) 44-4521	031	八戸市青葉2-21-2
	弘　前 S.S.	(0172) 28-0165	036	弘前市高田1-13-1
岩手	盛　岡 S.C.	(019) 637-0121	020	盛岡市津志田12地割字新田堰94番地1
	水　沢 S.S.	(0197) 22-2773	023	水沢市天文台通り3-12
秋田	秋　田 S.C.	(0188) 24-3189	010	秋田市山王中園町4-1
	大　館 S.S.	(0186) 43-0980	017	大館市美園町5-6
	横　手 S.S.	(0182) 32-8873	013	横手市赤坂字大道向3-6
宮城	仙　台 S.C.	(022) 287-0151	984	仙台市若林区六丁の目西町7-13
	石　巻 S.S.	(0225) 94-7711	986	石巻市門脇字四番谷地8-18
山形	山　形 S.C.	(0236) 42-0279	990	山形市松山3-12-18
	酒　田 S.S.	(0234) 26-7145	998	酒田市亀ヶ崎6-6-1
福島	郡　山 S.C.	(0249) 52-6331	963	郡山市堤1-3
	いわき S.S.	(0246) 28-4991	970	いわき市平上荒川字桜町19-4
	会津若松 S.S.	(0242) 32-0247	965	会津若松市滝沢町1-5
	福　島 S.S.	(0245) 53-9437	960-01	福島市本内字南原26-1
関信越				
新潟	新　潟 S.C.	(025) 241-0527	950	新潟市明石1-2-19
	佐　渡 S.S.	(0259) 57-3127	952-13	佐渡郡佐和田町河原田本町93
	長　岡 S.C.	(0258) 24-1462	940	長岡市下下条2-1366-1
	上　越 S.S.	(0255) 44-9987	942	上越市五智1-11
長野	松　本 S.C.	(0263) 25-9353	390	松本市鎌田2-3-50
	長　野 S.C.	(026) 221-9946	380	長野市川合新田962-1
	上　田 S.S.	(0268) 23-3589	386	上田市古里79-1
群馬	前　橋 S.C.	(027) 255-5920	371	前橋市大渡町1-19-1
栃木	宇都宮 S.C.	(028) 635-2656	320	宇都宮市住吉町17-9
茨城	水　戸 S.C.	(029) 246-1531	310	水戸市元吉田町1077
	土　浦 S.S.	(0298) 22-5946	300	土浦市真鍋6-1-25
山梨	甲　府 S.S.	(0552) 37-3136	400	甲府市湯田2-11-5
千葉				
千葉北部	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(03) 5803-2888	113	東京都文京区本郷3-14-7 ビクター本郷ビル4F
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	千　葉 S.C.	(043)246-2588	261	千葉市美浜区幸町2-1-1
	柏　S.C.	(0471)75-4322	277	柏市豊四季512-10-67
	浦　安 S.S.	(047)353-6189	279	浦安市当代島2-13-27
千葉南部	【サービス関連全て】のご相談窓口			
	木更津 S.S.	(0438)36-6413	292	木更津市真船5-4-9

都府県名	拠点名	TEL	〒	所在地
東京				
東京	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(03) 5803-2888	113	東京都文京区本郷3-14-7 ビクター本郷ビル4F
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	本　郷 S.C.	(03) 5684-8254	113	東京都文京区本郷3-14-7 ビクター本郷ビル1F
	秋葉原 S.S	(03) 3251-2128	101	東京都千代田区外神田1-6-6
	練　馬 S.C.	(03) 3993-7520	176	東京都練馬区豊玉南1-19-1
	大　田 S.C.	(03) 3727-9385	145	東京都大田区北千束2-20-6
	浦　安 S.S.	(047) 353-6189	279	浦安市当代島2-13-27
	八王子 S.C.	(0426) 46-6914	192	東京都八王子市大和田町2-9-6
	【業務用機器専門】のご相談窓口			
	東京業務機器センター	(03) 3874-5231	110	東京都台東区根岸5-4-3
埼玉				
埼玉	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(03) 5803-2888	113	東京都文京区本郷3-14-7 ビクター本郷ビル4F
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	大　宮 S.C.	(048) 654-5241	330	大宮市東大成町2-658-1
	熊　谷 S.S.	(0485) 53-5105	361	行田市城西2-7-39ツインハイツ石山B
	川　越 S.S.	(0492) 42-4496	350	川越市小室491-1
神奈川				
神奈川	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(03) 5803-2888	113	東京都文京区本郷3-14-7 ビクター本郷ビル4F
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	横　浜 S.C.	(045) 651-0403	231	横浜市中区翁町1-3-1
	横須賀 S.S.	(0468) 34-9261	239	横須賀市久里浜6-4-1
	川　崎 S.C.	(044) 975-1879	216	川崎市宮前区南平台3-2（第2石原ビル）
	平　塚 S.C.	(0463) 23-2687	254	平塚市老松町4-9（木村ビル）
	小田原 S.S.	(0465) 24-0681	250	小田原市浜町4-1-12
	相模原 S.C.	(0427) 76-2052	229	相模原市古淵3-7-4
静岡				
静岡	静　岡 S.C.	(054) 282-4141	422	静岡市曲金6-5-28
	沼　津 S.S.	(0559) 22-1557	410	沼津市筒井町6-5
	浜　松 S.S.	(053) 421-3441	435	浜松市北島町785
東海・北陸				
愛知	名古屋 S.C.	(0568) 25-3235	481	西春日井郡西春町九ノ坪鴨田121-1
	三　河 S.S.	(0564) 26-1005	444	岡崎市井ノ口町字河原西31
	豊　橋 S.S.	(0532) 64-0815	440	豊橋市佐藤5-19-1
岐阜	岐　阜 S.S.	(058) 274-1947	500	岐阜市宇佐南3-1-28
三重	三　重 S.S.	(0593) 52-0841	510	四日市市堀木2-15-2
	津　S.S.	(0592) 29-7780	514	津市大字藤方485-18
富山	富　山 S.C.	(0764) 25-2397	930	富山市総曲輪4-3-5
石川	金　沢 S.C.	(0762) 31-5242	920	金沢市長土塀2-1-27
福井	福　井 S.S.	(0776) 53-6916	910	福井市西開発3-211

所在地、電話番号が変更になる場合がございますので、あらかじめご了承ください。　0997

都府県名	拠点名	TEL	〒	所在地
近畿				
滋賀	【サービス関連全て】のご相談窓口			
	滋賀 S.S.	(0775)82-5812	524	守山市浮気町268
京都南部	【出張修理専門】のご相談窓口			
	大阪 S.C.	(06)304-5731	532	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	京都 S.C.	(075)313-3189	600	京都市下京区七条御所の内北町91
京都北部	【サービス関連全て】のご相談窓口			
	福知山 S.S.	(0773)22-8664	620	福知山市厚東町145-2
奈良	【出張修理専門】のご相談窓口			
	大阪 S.C.	(06)304-5731	532	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	奈良 S.S.	(07442)4-6271	634	橿原市葛本町834-2
大阪	【出張修理専門】のご相談窓口			
	大阪 S.C.	(06)304-5731	532	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	大阪 S.C.	(06)304-5731	532	大阪市淀川区田川2-4-28
	大阪南 S.C.	(06)768-5489	543	大阪市天王寺区小橋町10-16
	堺 S.C.	(0722)54-2881	591	堺市百舌鳥梅町3丁目21-2 伊助ハイツ
	【業務用機器専門】のご相談窓口			
	業務機器 C	(06)304-6715	532	大阪市淀川区田川2-4-28
和歌山	【サービス関連全て】のご相談窓口			
	和歌山 S.S.	(0734)72-6799	640	和歌山市太田430-8
	田辺 S.S.	(0739)22-9914	646	田辺市文里1-19-18
兵庫東部	【出張修理専門】のご相談窓口			
	大阪 S.C.	(06)304-5731	532	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	神戸 S.C.	(078)252-0562	651	神戸市中央区磯上通3-2-16
	明石 S.S	(078)924-1104	673	明石市西明石北町3-12-9 小西ビル1F
兵庫西部	【サービス関連全て】のご相談窓口			
	姫路 S.S.	(0792)34-3833	670	姫路市中地南町11-1

都府県名	拠点名	TEL	〒	所在地
中国				
岡山	岡山 S.C.	(086)243-1566	700	岡山市西古松西町8-23
広島	広島 S.C.	(082)243-9839	730	広島市中区光南3-9-17
	福山 S.S.	(0849)31-6984	721	福山市南蔵王町3-5-15
	呉 S.S.	(0823)74-9364	737	呉市古新開2-17-32-102
山口	山口 S.C.	(0839)73-3708	754	吉敷郡小郡町花園町5-28
	徳山 S.S.	(0834)27-1331	745	徳山市野上町2-35
	下関 S.S.	(0832)51-1040	751	下関市熊野町2-14-23
四国				
香川	高松 S.C.	(0878)66-1200	761	高松市田村町205-1
徳島	徳島 S.C.	(0886)22-7387	770	徳島市沖浜2-37
高知	高知 S.S.	(0888)82-0546	780	高知市高須新町4-143
愛媛	松山 S.C.	(0899)23-0372	791	松山市中央1-4-12
	宇和島 S.S.	(0895)20-1018	798	宇和島市坂下津甲407-40
	新居浜 S.S.	(0897)67-1030	792	新居浜市松神子2-2-25
九州・沖縄				
福岡	福岡 S.C.	(092)431-1261	812-91	福岡市博多区博多駅前4-16-1
	久留米 S.C.	(0942)39-3495	830	久留米市西町字神浦1-1192
	北九州 S.C.	(093)921-3981	802	北九州市小倉北区三萩野2-9-3
	筑豊 S.S.	(0948)29-1146	820	飯塚市片島2-22-27
佐賀	佐賀 S.S.	(0952)26-8785	840	佐賀市本庄町大字袋265-1
長崎	長崎 S.C.	(0958)62-5522	852	長崎市城山町9-13
	佐世保 S.S.	(0956)33-5568	857-11	佐世保市木風町1467-2
大分	大分 S.S.	(0975)43-1422	870	大分市大道町4-1-2
熊本	熊本 S.C.	(096)353-4536	861-41	熊本市近見町1218-1
宮崎	宮崎 S.S.	(0985)24-5401	880	宮崎市霧島町3-59
	延岡 S.S.	(0982)35-7077	882	延岡市惣領町24-3
鹿児島	鹿児島 S.C.	(099)267-3572	891-01	鹿児島市小松原2-23-28
沖縄	沖縄 S.C.	(098)898-3631	901-22	沖縄県宜野湾市真志喜1-13-16
山陰				
島根	山陰ビクター販売(株) サービスセンター (松江・米子担当)	(0852)31-8900	690	松江市西川津町1484-3
	出雲営業所サービス係	(0853)21-4611	693	出雲市今市町854
	浜田営業所サービス係	(0855)22-1584	697	浜田市長沢町671-1
鳥取	鳥取営業所サービス係	(0857)23-2151	680	鳥取市富安2-45

●海外でのビデオムービーの修理ご相談窓口

北米・ハワイ

カナダ JVC CANADA INC.

- トロント 〔416-293-1311〕
  21 Finchdene Square, Scarborough, Ontario M1X 1A7

アメリカ JVC SERVICE & ENGINEERING COMPANY OF AMERICA

- アトランタ 〔770-339-2522〕
  1500 Lakes Parkway Lawrenceville, GA 30243-5857
- サンフランシスコ 〔415-871-2666〕
  890 Dubuque Avenue, S. San Francisco, CA 94080-1804
- シカゴ 〔630-851-7855〕
  705 Enterprise Street Aurora, IL 60504-8149
- ニュージャージー 〔973-808-9279〕
  107 Little Falls Road, Fairfield, NJ 07004-2105
- ヒューストン 〔713-935-9331〕
  10700 Hammerly, Suite 110, Houston, TX 77043
- ボストン 〔508-881-5923〕
  230 Eliot Street, Ashland, MA 01721-2377
- ホノルル 〔808-833-5828〕
  2969 Mapunapuna Place, Honolulu, HI 96819-2040
- マイアミ 〔954-472-1960〕
  8192 State Road 84, Davie FL 33324
- ロサンジェルス 〔714-229-8011〕
  5665 Corporate Avenue Cypress, CA 90630-0024
- ハリウッド 〔310-659-5262〕
  8764 Beverly Boulevard West Hollywood, CA 90048

(注)・ヨーロッパその他の地域ではテレビジョン方式の違い等の問題がありますので、おでかけの前に下記お客様ご相談センターにご相談ください。
・海外では日本の保証書は適用されませんので、修理は全て有料となります。

●ビクター製品についてのご相談窓口

お買物相談、お取扱い方法、お手入れ方法その他ご不明な点は、下記にご相談ください。

お客様ご相談センター	(03)5684-9311	113	東京都文京区本郷3-14-7 ビクター本郷ビル
	(06) 765-4161	543	大阪市天王寺区小橋町10-16 大阪ビクタービル

その他

主な仕様

一般仕様

項　　目	仕　　様
電源	DC 6.3 V（ACアダプター使用時） DC 7.2 V（バッテリー使用時）
消費電力	6.3 W（ファインダー使用時） 8.2 W（液晶画面使用時）
規格	DV方式（SD仕様）
信号方式	NTSC日米標準信号
使用カセット	Mini DV カセット
録画時間	SPモード：60分、LPモード90分（DVM‐60テープ使用時）
早送り・巻戻し時間	約100秒（DVM-60使用時）
撮像素子	38万画素プログレッシブスキャンCCD （撮像エリア約36万画素）
ズーム倍率	光学ズーム倍率10倍、総ズーム倍率200倍（デジタルズーム使用）
レンズ	F1.2、f=5〜50 mm フィルター径：別売レンズアダプターGL-V5842使用で、 58 mm（ネジピッチ0.75 mm）
液晶画面	4型、11.2万画素、TFT LCDパネル
ファインダー	0.55型、11.3万画素、LCDパネル
最低照度	5ルクス、2.5ルクス（高感度モード時）
内蔵マイク	コンデンサータイプ/ステレオ
許容動作温度	0〜40 ℃
許容相対湿度	35〜80 %
許容保存温度	-20〜50 ℃
外形寸法	幅約86×高さ約86×奥行き約145 mm（液晶画面、ファインダー収納時）
質量	本体質量　約670 g 撮影時質量 約780 g（バッテリーBN-V814、カセットM-DV30ME含む）

オーディオ仕様

項　　目	仕　　様
サンプリング周波数	48 kHz/32 kHz、44.1 kHz（再生のみ）
チャンネル数	2チャンネル（48 kHz）
	4チャンネル（32 kHz）
量子化ビット数	16 bit直線（48 kHz） 12 bit非直線（32 kHz）
スピーカー	モノラルタイプ

端子部仕様

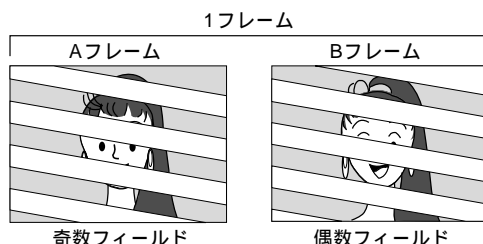
項　　目	仕　　様
マイク入力端子	φ3.5 mmミニプラグ　ステレオ（0.61 mVrms）
ヘッドホン端子 ／AV出力端子	φ3.5 mmミニプラグ 映像：アナログ出力（1 Vp-p, 75Ω） 音声：ステレオ／アナログ出力（300 mVrms, 1 kΩ）
S2映像出力端子	アナログ出力（Y：1.0Vp-p 75Ω　C：0.29Vp-p　75Ω）
DC入力端子	6.3 V
DV出力端子	4ピン　IEEE1394準拠　　　　デジタル出力
デジタル静止画出力端子	φ3.5 mm　4極　小型単頭ジャック（EIAJ RC-5325プラグに適合）

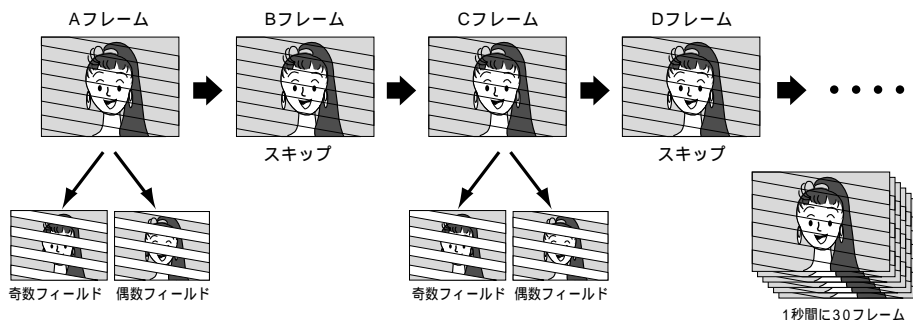
●仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

用語解説

プログレッシブスキャンCCDとは

プログレッシブスキャンとは飛び越し走査を行わず、すべての走査線をそのまま走査する特別な撮像方式です。プログレッシブスキャンCCDは、従来の倍の1秒間に60枚のフルフレーム信号を出力できるため、これを利用して通常のテレビで見ることのできる信号に直したときでも高画質の映像が得られます。

1. 通常の動画撮影の場合

奇数フィールドと偶数フィールドを加えて1秒間に60枚の画面（フィールド）を記録します。この奇数フィールドと偶数フィールドは、時間のずれがあるため、2枚重ねると動いている部分にブレが生じますが、**通常再生するとなめらかな動きになります。**

2. プログレッシブ動画撮影の場合

Aフレームを奇数フィールドと偶数フィールドに分けて記録して、次のBフレームはスキップします。そして次のCフレームをAフレームと同様に記録して1秒間に30フレームずつ記録して行きます。通常の動画撮影と違って、同一フレームの奇数フィールドと偶数フィールドを合わせて記録してゆくために、重ねて表示しても**ブレのない画像が記録できます。**ただし、通常再生すると、ややぎこちない動きになります。

3. 記念写真撮影の場合

プログレッシブボタンを押した時点でのフレームを約6秒間記録します。プログレッシブモードで記録されます。（4分割、9分割モードを除く）

わからない言葉があったときは

用　語	解　　説
アイリス	人間の目と同じ働きをします。人間の目は光が強いところでは瞳が縮み、光がたくさん入らないようにします。逆に暗いところでは瞳が広がり、光をたくさん入れるようにします。 アイリスはそれらの機能をムービーで電気的に行うものです。
色温度	被写体を照らす光には、赤っぽい色や青っぽい光など、さまざまな質があります。この光の色合いを示す基準を色温度と言います。
ACアダプター	バッテリーを充電するときに使用します。また、直接ムービーに接続して電気を供給することもできます。
オートフォーカス	初めてムービーを使う人が苦手とするピント合わせを自動で行います。
オンスクリーン	液晶画面のメッセージ表示などを、ムービーなどに接続したテレビに映すことができます。
カメラリハーサル	テープを入れずに電源ダイヤルを A 、M などにすると、ムービーで撮っている映像を液晶画面やファインダーで見ることができます（カメラリハーサル状態）。この状態でムービーをテレビなどに接続すれば、映像をムービー以外の外部映像機器で見ることができます。
録画一時停止	撮影を一時的に停止している状態を指します。スタート／ストップボタンを押せば撮影がスタートします。
白バランス	照明がロウソクの時と蛍光灯の時では人間の目で見て同じ色でもムービーで撮ると違った色になります。白バランスはそれを自然な色合いに調節する機能です。
つゆつき	温度変化などにより、ムービー内部に水滴が付着する状態を指します。つゆつきが生じると、液晶画面に 💧 が表示され、ムービーは停止します。
デジタルズーム	レンズの性能で拡大した映像（10倍まで）を、デジタル処理でさらに拡大する機能です。40倍、または200倍ズームが可能です。
手ぶれ補正	ムービーを手で持って撮影するときに生じる比較的小さな揺れを自動的に補正する機能です。
フェーダー （フェード）	映像の場面切替に使われるテクニックの1つです。映画やテレビの映像で、映像が徐々に薄れて消えていくことをフェードアウト、徐々に浮かび上がってくることをフェードインと呼びます。
NTSC	テレビの方式の1つで、日本、アメリカ、カナダ、メキシコ、台湾などがこの方式を採用しています（☞114 ページ）。このほかにPAL（ヨーロッパなど）、SECAM（フランス）の方式があります。
ワイプ	映像の場面切替に使われるテクニックの1つで、映像が拭き取られるように消えていくことをワイプアウト、映像が拭き取られるようにして次の場面があらわれることをワイプインと言います。

索引

あ

か

さ

た

な

は

ま

や

ら

わ

アルファベット

GR-DVL 取扱説明書

故障かな？と思ったら

修理に出す前に102 〜 105ページをご確認ください。

修理相談

「お買い上げ販売店」へご相談ください。

ご転居等で保証書記載のお買上げ販売店に修理をご依頼になれない場合は、115ページの「保証とアフターサービス」をお読みの上、116〜117ページの「ビクターサービス窓口」にご相談ください。

お買物相談

お取扱い方法、お手入れ方法その他ご不明な点は「お客様ご相談センター」にご相談ください。

お客様ご相談センター

東　京

☎ (03)5684-9311

〒113-0033 東京都文京区本郷3丁目14-7 ビクター本郷ビル

大　阪

☎ (06)765-4161

〒543-0028 大阪市天王寺区小橋町10-16 大阪ビクタービル

ビデオ事業部

〒221-8528 横浜市神奈川区守屋町3丁目12番地　電話(045)450-2550

1197YSV＊SW＊VP